

学び合いによってコミュニケーション力を高める授業の工夫

小川正清

英語科 三田耕平

端崎圭一

1. テーマ設定に当たって

昨年度は、全教科で「問題解決力」を取り扱ってきた。英語科の研究（テーマ「将来豊かなコミュニケーションができるための基礎的な表現の育成を目指して」）では、[確かな学力]の中の「表現力」を「問題解決力」の一部ととらえ、各学年の授業でどのように問題解決をさせていくのが効果的か、各学年の発達段階（2004年度の研究テーマ）を見据えて研究を進めてきた。

今年度、本校では、「共に学ぶ生徒の育成をめざして～コミュニケーション力を高める実践研究～」を主題に生徒同士が互いにかかわりながら共に問題解決にあたる（＝「共に学ぶ」）過程を大切にした授業を実践していくこととなった。英語科では、各学年での取り組みのほかに、異学年交流授業を計画し、3年生選択と2年生との交流授業、2年生選択と1年生との交流授業を実践してきた。

異学年交流授業は次のことを主な目的として実践した。

- ・英語の情報の受け手に合わせて、情報を発信できるようにする。相手に分かる表現を探したり、難しい単語を言い換えたりする力を養う。ジェスチャーなど、ことば以外のメディアも使って何とか相手に情報を伝える力を養う。
- ・上級生が実際の経験やこれまで学んできたことを下級生に伝えることにより、これまでの学習の成果を実際に活用することができるようにする。
- ・下級生が上級生から学ぶことにより、具体的な目標やあこがれを持ち、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。

英語の授業では、「英語」と「日本語」の2つのコミュニケーションが考えられる。すなわち、「英語によるコミュニケーション活動」と、日本語で英語について話し合うといった「日本語による自己表現」の2つである。

生徒は普段から、日本語（+ことば以外のメディア）を通して友達とコミュニケーションしている。つまり、他者に対し日本語を話したり、書いたりして自己表現をし、それを聞いたり、読んだりして他者理解をしている。その日本語が英語に変わったとき、そこには様々な問題が発生することが予想される。英語の表現力（話す力、書く力）が不十分であれば、相手に情報をうまく伝えることができないし、英語の理解力（聞く力、読む力）が不十分であれば、相手の情報をうまく受けることができなくなるわけである。表現力や理解力を高めることが必要になるが、「教師が教える」だけの受動的な授業から、「生徒が共に学ぶ」ことによってその能力を高めることができるという視点を授業に盛り込んでいきたいと考えた。英語の授業の中で、英語のコミュニケーション活動そのものを生徒がしていくことによって、「英語による」他者理解力と自己表現力を高めていこうというものである。

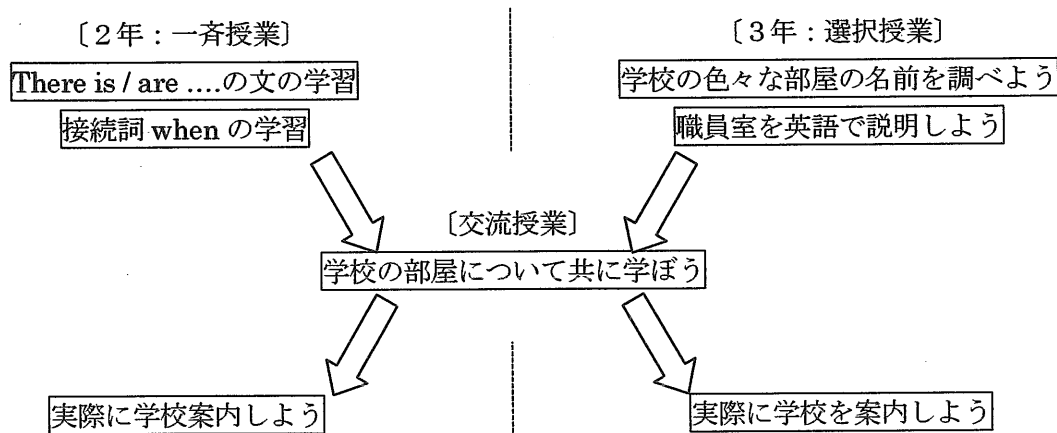
異学年交流授業をする時、授業の前に、コミュニケーション活動がうまくいくように準備したり、練習したりする時間が必要になる。また、授業が終わった後、授業中のコミュニケーション活動でうまくいかなかったところを振り返る時間が必要になる。つまり、「どうやったらうまくいくのか?」、「どう改善したらうまくいったか?」を考えることが必要になる。生徒同士が事前と事後に話し合い、問題を解決していく、そういった日本語での話し合いも「共に学ぶ」力であると考えた。

学力に差のある異学年の授業をする時、必要な知識や技能について質問したり、教えたりする場面が生まれることが予想される。教師が生徒にモデルを示す（やってみせる）ように、上級生が下級生にモデルを示す（やってみせる）場面をつくり出し、さらに、（昨年度森先生から学んだ）モデリングーコーチングースキファールディングーフェイディングの4段階の指導法を、生徒の活動の中にも盛り込むことを意識した。

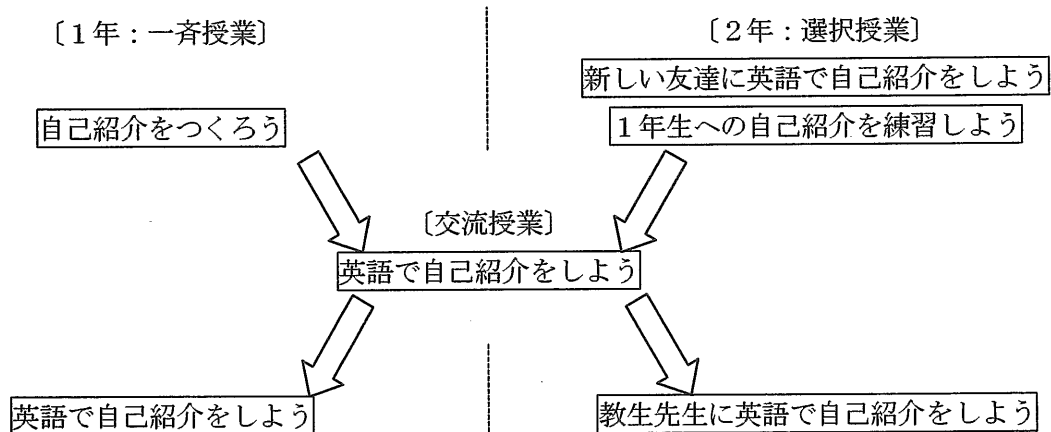
また、例えば、異学年が初めて出会う授業では、自己紹介の自然な状況をつくりだすことができる。コミュニケーションは、いつも同質の人間関係の中で行われるものではなく、むしろ、異質な人間関係の中で行われることの方が多くはないかと思われる。真のコミュニケーション力をつけるには異質な集団とのコミュニケーション体験が必要と考える。異学年交流授業では、年齢の異なる生徒同士が触れ合うことで、真のコミュニケーションへ一歩近づけたいと考えた。

円滑なコミュニケーションの前提として、お互いが温かい人間関係にあるということが大切であると考えられる。つまり、教師と生徒の関係、生徒同士の関係（異学年交流授業では、上級生と下級生が同じ場所で学ぶ時の気持ち）、各クラスや異学年交流授業での雰囲気や、「授業風土」がよいものでないと、コミュニケーションはうまくいかないだろう。このような雰囲気づくりは、指導者の大切な役割である。また、他教科の実践や学校行事など学校のあらゆる活動を通して、共に学ぶ経験を重ねる中で、温かい人間関係を育んでいくことが大切な視点となることも意識して、実践を進めてきた。以下に、実践について詳しく述べていきたい。

【2・3年生 交流の流れ】



【1・2年生 交流の流れ】



2. 2・3年生による異学年交流授業

(1) 交流前の授業（2年生：一斉授業）

① 【5月】友達の疑問について、グループで考えよう

プログラム2を学習する際に生徒から出てきた5つの質問について、4人構成の10の班に分かれ、それぞれの班で答えを考え（10分）、全体の前で班の代表が発表し合う（15分）活動を実施した。質問は、以下のようにプリントにまとめ、各生徒に配布した。

友達の質問に答えよう！

17ページ How about some fruit? について

- ① どうして疑問文なのに、some なんですか？ any ではないのですか？
- ② どうして fruit となっているんですか？ fruits ではないのですか？
- ③ 18ページの coxinha はどうしてイタリック体（斜めの文字）になっていないのですか？

inari-zushi も *coxinha* も英語にとっては外国語だと思います。

- ④ 17ページ What can I bring to the party? について、桃子は自分が何を「持って行く」か聞いているのだから、bring ではなく take ではないか？

- ⑤ There is ～. の文について、×There is Kenrokuen Garden in Kanazawa. という言い方はできないということですが、「金沢に兼六園がある。」と英語で言うにはどうすればいいのですか？

×There is Kenrokuen Garden in Kanazawa.

◎ There is a (beautiful) garden in Kanazawa.

考察： 英語について日本語を使って話し合うという活動は、1年時から時々取り入れてきた活動である。これまでは、例えば Do you like fruit? の質問に対して、No, I don't. と答えた人がそれに続けてどんな言葉を返せるかを、班で話し合い、できるだけ沢山考えるという活動をしてきた。

今回は、英語についての疑問に対する答えをみんなで考えるという活動であったが、この形にはどの生徒も抵抗感なく取り組むことができたようである。活動の様子を観察すると、以下のような学び合いや教え合いの様子が観察できた。

- ・英和辞典を調べ、そこから得た情報を班の中で発表する。
- ・これまで英語を学んできた知識や経験を生かし、意見を出し合う。
- ・相手の意見に対し、それは違うのではないかななどの討論をする。

こういった活動を通して、尊敬やあこがれ、信頼感といった気持ちを育て、安心して自分の考えを表明できる雰囲気、「教えてあげる」、「教わる」といったことが、いつでも自然にできるような雰囲気をつくっていくことが大切であると感じた。

一方、次のような班の様子も観察できた。

- ・英和辞典の情報を班の中で十分に共有せず、そのまま発表してしまう。
- ・ある生徒の考えを班全員に理解を広げないまま、分かっている生徒が勝手に発表してしまう。
- ・十分な話し合いができずに簡単な間違いに誰も気付かないまま発表に至ってしまう。

残念ながら、話し合いをしようという意識の薄い班、うまく話し合いができない班が見られた。班の中の間人間関係がうまくいっていないところにこのような傾向が見られた。学級の風土づくりや、良好な人間関係を築くこと、共同で課題にあたらうとする真摯な姿勢を育てること、

活動の目的をはっきりと示し班員全体で積極的に課題に取り組むことができるようにする工夫が必要であると感じた。

班でまとめた意見を全体の前で発表していく場面では、多くの班が妥当な答えを導き出せていた。似た内容でも各班で異なった表現で説明がなされ、生徒自身も様々な説明の仕方を通して理解を深めていたようで、他の生徒の理解の仕方を知る、よい学び合いの場になっていた。

②【6月】プログラム3の新出表現の学習

2年の生徒は交流授業の前の6月に、接続詞 *when* と *There is / are ~* . を扱う単元を学習した。*when* は、学校紹介の場面では、例えば「この部屋は、音楽の勉強をする時に使います。」というような説明で使うことができる。また、*There is / are ~* . の表現は、例えば「ここには、コンピュータが40台あります。」というような説明で使うことができる。

授業では、自分が今までに住んだことのある土地を接続詞 *when* を使って、「私は5歳の時、東京に住んでいました。」といった文で表現をさせた。*There is / are ~* . については、自分の家の近くの様子について、「うちの近所には、コンビニが3つあります。」といった文で表現をさせた。

考察：異学年交流のために、事前の授業で、「これは7月にやる学校紹介の時に、使います。」と予告したり、実際に部屋の紹介の文を練習させたりした方がよいか、迷いがあった。結果的には、そういうことはせず、交流の中で、3年生の先輩が教えてくれたり、自分たちで考え、思いついたりすることを期待して、あまり指導者が先回りし過ぎることを避けた。

交流授業の様子を観察してみると、2年生がこれらの表現を難なく使いこなす様子はほとんど見られなかった。むしろ、3年生が *when* や *There is/are ~* . を使った学校紹介の文を即座に出したり、難なく使ったりする様子に、感心していた2年生が多かった。一方、2年生が日本語で提示したアイデアを3年生が英語にするといった班がほとんどだったため、3年生の力に圧倒された2年生から英語があまり出てこない傾向、英語については「3年生に任せっぱなし」という傾向が強くなってしまったようである。以上のことから、これら2つの表現の学習が直接的に交流授業に生かされたとは言えないが、3年生が2年生の習ったばかりの2つの表現を上手に学校紹介に生かしている様子は、3年生へのあこがれ、尊敬の気持ちを高める上では、役に立っていたようである。

(2) 交流前の授業（3年生：選択授業）

【選択授業1時間目（6月15日）】

① 目標をつかむ（5分）

まず、指導者が“*show around*”という表現を生徒に示した。生徒は、これがどんな意味なのかを“*show*”と“*around*”それぞれの単語の持つイメージから類推した。「案内する」という意味を把握した上で、これからの5時間分の活動は、「外国（英語圏）からのゲストや友人が来たときにそなえて、学校にある様々な部屋について既習の英語を用いて説明できるようにする」というめあてを持った。また、指導者は、113頁にあるような交流授業を含めたこれからの授業の見通しを生徒に説明した。

考察：“*show*”と“*around*”という語は既習の語であるから、生徒には“*show around*”という表現は比較的容易に理解できていた。めあてについては、この段階では、「ああ、そんなことをするのか」程度の思いがあるくらいで、あとで示す感想にあるように、その意義や難易度などを感じているようには見えなかった。

② モデリングをきく (5分)

次に、「案内する」とときには、それぞれの部屋や場所についての説明が伴うのが自然であることを理解し、そのときどのような説明ができるかを指導者のモデルを通して知った。今回は、学校の1階にある「柏樹ホール」と呼ばれる集会室についてのモデルを聞いた。指導者は、既習の語彙や文法項目を意識しながらゆっくりと説明した。

This is the assembly room, "shu-kai-jo. We call this room "KASHIWAGI HALL."
There are about 200 seats in this room. We come to this room when we have a
"comprehensive study" class, "sogo gakushu no jikan." As you see, there are ten
computers here. We sometimes use a computer to get some information on the Internet
or write a report in the comprehensive study class. Also we sometimes come here to
hear our teachers' important talk about our school life.

考察：「えっ、こんなにいっぱい説明するの！」と呟く生徒が見られた。発展的学習内容を扱う選択授業ということで生徒にとって少し高い目標設定であるが、生徒の意欲が高まることの期待をしていたものだった。

③ 部屋を列挙する (10分)

校舎内にどんな部屋や場所があるのかを確かめた。生徒が1～4階の順にどのような部屋や場所があるのかを挙げ、指導者がボードに書きとめた。その後で、生徒が見落としているものについて指導者が追加した。

考察：生徒にとって、2年以上生活している校舎であるが、どんな部屋があるのかを確認することで、あらためて部屋の種類の多さに驚いていたようである。「あっ、そうそう。そんな部屋もあるね。」という会話の中に再発見の喜びを見て取れた。

④ 部屋の名前を調べる (30分)

まず、生徒はボードに列挙した部屋や場所の名前をワークシートに記入した。そのあと、指導者が指定したペアになり、和英辞典を用いて部屋の英語名を調べた。調べ終わった後、他のペアと情報の共有をした。指導者は英語名を確認し、複数あるものについては、ALTとの情報を元にどれが学校にふさわしい英語名であるのかを指定した。

考察：ペア作りについては、仲の良い生徒同士のペアや学力差を考慮したペアなど指導者が学びの価値を高める目的で組合せを考えることもあるが、この段階では、どんな生徒ともコミュニケーションができる生徒を育成したいという学校全体の研究のねらいに従って、座席のままペアを組んだ。結果、一ペアだけが普段からあまりコミュニケーションを取っていない生徒同士になった。

英語科では、この段階のペア活動は、「共に学ぶ」ための最初のステップと考えた。一人で辞書を調べるよりも二人で調べることで効率化が図れたり、複数出ている英語表現についてどれがふさわしいかを相談できたりする意義に気づいてくれたらよいと考えた。言い換えれば、この段階で、「学び合う姿勢づくり」を生徒に持ってもらいたいと考えたということである。

【選択授業2時間目 (6月15日)】

⑤ 「職員室 (teachers' room)」についての英語説明をペアで考える (30分)

様々ある部屋の中から、まず、課題として「職員室」を英語で説明する活動に取り組んだ。1時間目と同じペアで「職員室」の記述を試み、ワークシートにまとめた。

考察： この活動は、「共に学ぶ」ための二番目のステップと考えている。すなわち、「協同で英語表現をする」活動への移行である。ここでは、生徒が二つのことを行うことを期待した。一つは「職員室 (teachers' room)」を説明する際のアイデアの意見交換、もう一つは、そのアイデアを英語で表す際の語彙や文型などの意見交換である。

一つ目については、何を表現するのかという問題であるから、英語の語彙力や文法力とは直接関係のない部分かもしれない。しかしながら、表現したいこと、伝えたいことをしっかりと持っているということがとても重要なことだと考える。生徒の様子を見てみると、「職員室には何があるの?」「職員室の机の配置はどうなっていたかな?」「先生って何人いるの?」など普段出入りしながら知っている情報を交換しながら「職員室」のイメージを少しずつ固めていた。また、「職員室」の持つ部屋独自の特徴に目を向けるだけでなく、生徒が「職員室」への出入りのときに言う挨拶や教師の中での動きに目を向けることもできていた。

二つ目については、伝えたいことや集めた情報を、どのような語彙を用いて、また、どのような構文を用いて表現するか、生徒たちの英語の表現力が問われる場面である。構文を一つずつ学習するような授業とは異なり、総合的な英語力が求められる。生徒たちは、自分の頭の中にある英語を紡ぎ出すようにゆっくりと述べ合いながら、「こういうのはどう?」「こっちの方がいいのではない?」と英文を書いていた。一方の生徒の英文が、他方の生徒によって理解できる可能な表現であるかがチェックされ、英文ができ上がっていった。

今回の研究授業は、先にも述べたように、生徒同士が互いにかかわりながら共に問題解決にあたる(=「共に学ぶ」)過程を大切にしていきたいと考えているが、「問題解決」という時の問題には、数学のように答えが1つに決まる問題ではなく、答えが1つに決まらず多角的にものごとを検討しないと解決しないような問題を想定している(昨年度紀要参照)。「職員室」を記述しようとするとき、大枠の概念は共通であっても記述の仕方は1つには決まらない。また、答えはどこにもないから暗記して再生するような型の学習は通用しない。だからこそ、辞書を用いて調べ、知恵を出し合って主体的に取り組まないと問題は解決しない。このような意味合いの中で、生徒は積極的に活動していた。

⑥ 説明文をボードに書いて発表する (10分)

8つのグループが、それぞれペアで書き上げた「職員室」の記述文を、ホワイトボードに書いて発表した。16人という小人数なので全員がボードのところまで来て、自分たちの記述とは異なる点をメモしながら、他グループの記述を読むことができた。(写真1)

考察： 生徒たちは、他グループの記述を非常に感心した様子で読んでいた。この時の生徒の思いはp.143~144の資料3-1,2「同学年グループ活動後の評価」から知ることができる。いくつかポイントになる感想を拾い上げてみたい。

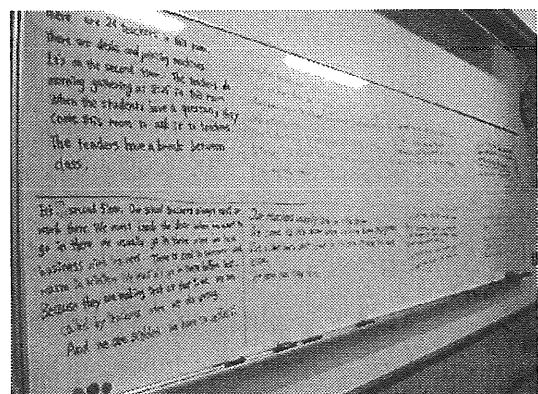


写真1

- ・2人の方が次々と表現ができて、そういった部分でも英語の勉強になったと思います。
- ・他のグループの人達は、僕達が思い浮かばなかった文をたくさん書いてとても参考になった。

- ・友達がいることで自分が思いつかなかった表現方法を知ることができ、友だちとするのはいいなと思った。
- ・“夏は涼しくて冬は暖かい”と書いた人がいたけど、その部屋にある物だけを紹介するのではなく、そんな視点もいいなと思った。
- ・他の班では、結構多くの英文を書いていたので、その発想をかりて自分の知識に続けたいと思います。
- ・友達のものを見てみると自分にはないアイデアがたくさんあっておどろいた。
- ・最後に自分の考えた文を書いて、情報交換ができて、自分にはないアイデアがあってとても良かった。
- ・他の人からたくさんの良いアイデアがもらえて、すごく力になった！
- ・お互いに辞書を活用して調べていたら分からない単語とかも見つけることができました。
- ・知識を合わせて協力することでいい文を作れたと思いました。
- ・みんなで知恵を出し合ったら、とても良いものになると思う。
- ・一人で文を考えたりすると、自分のアイデアしかはいらないので固い文になってしまうのだけど、パートナーと組んでやったり、他の人が作った文をみたりして、アイデアをたくさん増やすことができ自分の知識をさらにパワーアップさせることができました。

生徒は、協力して学ぶことで、どんなことが起きるのかを実感していると思われる。つまり、一人の力では限界があることも、協力することで、豊かな発想と豊かな表現をお互いに学びとることができる、より良い英文になっていくということを実感したようである。

⑦ 英文の仕上げと活動の振り返り・次時への抱負を書く（5分）

ペアに戻って、他グループから得た情報を元に自分たちの英文を書きなおした。また、活動の振り返りと次時への抱負を書いて授業を終えた。予定した時間は5分で、時間中には完成しない生徒がほとんどであった。放課後に仕上げてもってきたり、宿題として持ち帰って翌日提出したりというのが実際であった。

考察：ここでは2つのグループの英文を紹介する。

[グループA]

(2人で考えた英文)

Our teachers usually are in this room. We come to this room, when we have some engagement. We sometimes don't come in the room, because they make exam. The room has three parts.

(他グループの発表を参照にした後の文)

Our teachers usually are in this room. It is very quiet(e) room. There are desks and printing machines, and they always rest or work there. We come to this room, when we have some engagement. Then, we must say "May I come in?" We sometimes don't come in the room, because they make exam. There is cool in the summer, and warm in winter. I am envious of there.

[グループB]

(2人で考えた英文)

There are 24 teachers in this room. There desks and printing machines. It on the second floor. The teachers do morning gathering at 8:25 in this room. When the students have a questions, they come this room to ask it to teachers. The teachers have a break between class.

(他グループの発表を参照にした後の文)

.There are 24 teachers in this room. They use each computer to work. And they do morning gathering at 8:25 there.

This room on the second floor. There are desks and printing machines.

When the students have a question, they come this room to ask it to teachers. The teacher have a break there when they have no classes. We mustn't enter there before tests. Because teachers making tests.

グループAでは、部屋の静けさ、部屋にあるもの、教師の行動、生徒の発言などの情報が、書きなおした文に加わっているのがわかる。グループBでは、全体の骨格にあまり変化がないが全体に肉付けがなされた文に直っている。8つのグループすべての情報を網羅しようとすればできないことはなかったのだろうが、生徒が必要な情報を取捨選択していることがわかる。

英文そのものは、文法の誤りが見て取れるし、部屋の特徴とそこを利用する人の記述が混ざっており、まだまだ訂正しなければならない点が多々ある。ここから先は、指導者が訂正やアドバイスをする領域であると考え。

活動の振り返りについては、⑥の考察で紹介したとおりであるが、交流授業に向けての抱負については、p.143~144の資料3-1,2「異学年交流前の心構え」にまとめてみた。そこから見えてくることは、上級生としてのプライドと共に学ぼうという2つ姿勢である。ただ、前者の方の思いが圧倒的に多くの割合を示している。この思いが交流授業を通して、どのように変容したのかについて引き続き述べたい。

(3) 交流授業 (7月6日)

授業の流れは、p.142(資料2)の学習指導案を参照していただきたい。

考察: p.112とp.113で述べた異学年交流のねらいになるべく沿いながら授業を考察し、課題点も出してみたい。

① 上級生がどこまで下級生に関わることができたのか?

3年生がこの活動に臨む前に書いた交流前の抱負(資料3-1,2)をみると、2年生よりも1年余計に英語を学んでいるという上級生のプライドがはっきりと見て取れる。ほとんどの3年生に、2年生に英語を教えてあげようという意気込みが感じられた。ただ、数人の生徒に、2年生よりできなかったら「恥ずかしい」という思いが見え隠れしているのも見逃せないところである。

さて、今回の交流授業で見て取れたことは、学習活動の3や4(指導案参照)のように、上級生が下級生に前もって学習した知識を伝達するような活動ではほぼ全て

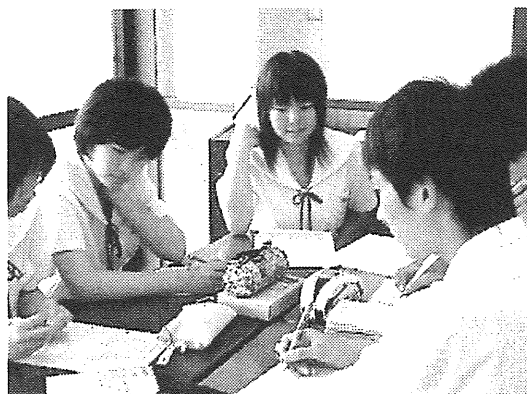


写真2 (中央の生徒が3年生)

のグループでうまくいったが、6のような活動、すなわち、両学年にとって初めての課題を共に取り組もうとするとき、3年生は活動前に想定していたものとは異なる状況に戸惑いを感じていたようである。それは、「なかなかうちとけて話すことができなかった」「思っていた以上に、初対面の子と話すのは大変でした」(資料3-1,2)などの感想からうかがえる。授業者としては、授業開始直後の挨拶・自己紹介や活動3・4で生徒たちを和ませようというねらいがあったのだが、十分なアイスブレイキングにはなっていなかったようである。

② 下級生はどこまで上級生を目標の存在として意識したか？

授業者として机間指導をして感じたのは、2年生も3年生が感じるのと同様、上級生にどのように関わったらよいのか手探り状態であったのではないかということである。このことは、「他の学年とやるとコミュニケーションの壁があるということが分かり…。」「自分の意見はあまり伝えることができなかった」「あまりみんなで意見の出し合いはできなかったような気がする」(資料3-1,2)という2年生の感想からうかがえる。

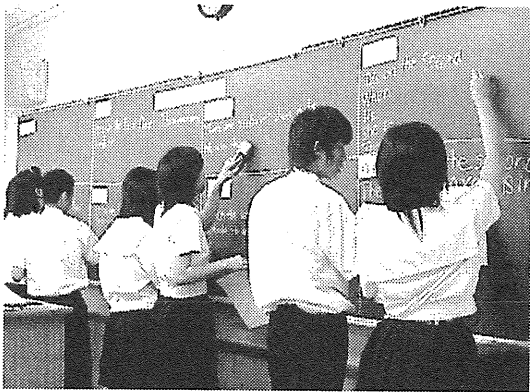


写真3 (出来上がった部屋の記述を板書中)

ただ、2年生の感想を全体的にながめてみると、こうした感想よりもむしろ肯定的な感想が多いことに気づく。

- ・先輩からいろいろ教わることができた。
- ・先輩たちは私たち以上に表現方法を知っていた。
- ・先輩の話は、すごく分かりやすかった。
- ・先輩はポンポン文が浮かんでいて流石だと思った。
- ・先輩たちの話しがわかりやすかった。
- ・先輩たちは見たらすぐに文にすることができて、すごいと思った。
- ・先輩たちが、私達が日本語で言った意見を教えてくれた

りしました。私も来年はこんな先輩になりたいです。

- ・先輩は淡々と文をすぐに考えてすごいなと思いました。
- ・いろいろな単語、文法を知っていてすごかったです。

37名の2年生のうち、上記のような感想を抱いた生徒は22名であった。この結果は、指導者が授業中に見取った様子とは異なるものであるが、本校の研究部が交流授業のねらいとしてあげたことに関して、多少なりとも成果が出ているのではないかとと思われる。上級生の力を認め、自分もそのような力のある上級生になりたいという願いを多くの生徒が感じるチャンスを得たとするならば、交流授業の意義があるように思われる。

③ 整理すべき課題点

生徒の自己評価からは上記のように交流授業の意義を見出すことができるが、整理すべきいくつかの課題点もあると考える。

まず、学びの深まりという点である。2・3年生双方の交流後の自己評価をみると、確かにアイデアの交換があったり、先輩の言う(または、書く)英語に触れて感動したりしているのがわかるが、英語そのものの学び合いが深まった活動であったのかと振り返ると、まだまだ、十分ではないように思われる。「楽しかった」という感想が見られるが、この楽しさのレベルは、イベント的な活動、例えば運動会のような上級生と下級生の交流で見られるようなものではないと思われる。この授業は試行的な授業ではあるが、もう少し継続的に行なうなどして時間をかけて観察を続ける必要があるのではないかと

感じる。

次に、班編成のあり方という点である。今回の2年の班は、クラスの座席の配置をそのまま利用して編成した。また、2年生の班と3年生のペアの組合せであるが、部活動関係のつながりを多少考慮したもの、あまり深い考えに基づいた班編成ではなかった。というのも、コミュニケーション力を高めるということにおいては、誰とでも交流できるのが望ましいという本校研究部の考えに基づき、あまり意図的な組合せはあえて避けたということがあった。しかしながら、結果を見ると、班編成は考慮すべき重要な要素であったと思われる。学び合うためには、心の壁が低くないと学びが広がらないし、深まらない。誰とでも交流できることは理想であるが、その理想に近づくためには、中学生という発達段階においては、段階を少し踏まなければならないようである。もう少し話しやすい環境に考慮するべきであった。実際、指導者の目から見て交流が活発に行なえたと思える班には、同じ部活動の先輩後輩がいて、最初から抵抗なく学習に入っていき、同じ班員もその雰囲気の中で発言していたと思われる。

もう一つは、生徒の配置という点である。すなわち、今回のような3年生2人と2年生5人の班であった場合、3年生をどこに配置して座らせるかが課題として見えてきた。今回はどの班も3年生が2人とも同じ側にすわり、反対側に座っている2年生とはかなりの距離が生じていた。3年生は3年生だけで、2年生は2年生だけで話してしまったという自己評価をしている生徒がいるが、この座席の配置が、起因しているように思われる。また、今回の交流は、選択授業と一斉授業の流れの中での交流であったが、同人数同士、すなわち、異学年の生徒が同数で交流したら、各自がもっと責任をもって話したり書いたりできたのではないかと考えられた。

(4) 交流後の授業（2年生：一斉授業）

【9月21日】

交流授業の後、教育実習生に協力してもらい、学校紹介をする活動をした。時間の関係で、教室と同じ階にある図書室を英語で案内することにした。3年生は交流授業後に、既に学校紹介の活動（p.123～）を済ませていたので、その活動の様子をもとに以下の4点を意識して、2年生の活動を行うことにした。

- ・原稿やメモを用意せずに「話す」活動にする。書いたものがあると、どうしてもそれに頼ってしまい、アイコンタクトもとれない。
- ・説明だけでは、すぐにネタ切れになってしまうことが予想されたので、図書室に関係することに話題を広げたり、教生（お客さん）に質問してもよいこととする。
- ・「初めて会う相手に学校を案内する」状況に近づけるため、他クラスを担当している教生に協力してもらう。
- ・教生には、その場で英語で質問をしてもらい、生徒はその質問を聞き、それに即座に答える。

この4点を取り入れるため、本校で2年生後半から3年生で取り組んでいる One-Minute Talk を利用することにした。One-Minute Talk は、突然与えられたトピックについて、沈黙をしないように2人で協力して、1分間会話を続ける活動である。学校紹介の直前に「図書室」というトピックで One-Minute Talk をすることで、話した内容をそのまま、次の「図書室の案内」に生かせると考えた。

授業の大きな流れは以下のようにした。

- ① One-Minute Talk の説明
- ② One-Minute Talk

別々の相手と「図書室」というトピックで2回、One-Minute Talkの活動をする。その際、話す相手が替わるので、1回目の相手と話した内容を2回目でもそのまま使ったり、工夫して利用したりしてもよいことを告げた。

③ 学校紹介をしよう！（図書室の案内）

2人1組で、教生の待つ図書室へ行き、図書室を紹介・案内する。（2分間）②で話した内容をそのまま使ったり、工夫して利用したりしてもよいことを告げた。

この活動では、以下のようなアドバイスや説明を行った。

- ・完璧な英語を話せなくてもかまいません。最初は、単語だけになってしまうかもしれませんが、沈黙の時間が多くなってしまうかもしれません。でも、この活動を通してだんだん、突然の話題について、何とか英語でコミュニケーションできるということに慣れていきましょう。
- ・沈黙の時間なく、英語だけで、2人で1分間話し続けることが目標です。話題は普段の日本語でのおしゃべりのように、流れていってもかまいません。
- ・これまでの練習で学んだことをもとに、今日は教生の先生に学校紹介をしましょう。ある日、海外から突然附属中学校にお客さんが来られ、2年4組の人にそのお客さんを案内してもらうことになりました。お客さんは、日本語が全く分からない英語を話す人です。（教育実習の先生に扮していただきます。）練習で使った表現、その場で思いついた英語で2人で協力して何とか2分間の時間を英語だけで乗り切りましょう。先生方には英語で質問もしてもらいます。質問にも英語で答えましょう。

考察： 原稿やメモを見ることなく話すという説明のあった時点で、生徒からは「難しそう」という声が多く聞かれた。まして、知らない相手に対し、原稿やメモを見ることなく話したり、質問に答えたりするという活動は、大きな負担だったようである。緊張している生徒も多かった。

しかし、活動の様子を観察してみるとOne-Minute Talkについては、続けて2回活動することや、1回目の経験が生かせることから、実際にやってみると思っていたよりもうまくいった生徒が多かったようである。約半数の生徒が1回目の会話を何らかの形で生かして活動できたという感想を書いている。初めての活動であったが、すぐにコツをつかんでいる様子が見られた。この活動を毎時間継続していくことで、即興的に話すことに慣れていくのにそれほど時間はかかれないだろうと思われる。話す時に気を付けなければならないマナーや、会話を継続させるために必要な表現についても、適宜教えていくことができると考えている。

一方、図書室を案内する活動は、とても緊張している様子がうかがえた。「難しそう。」という思いと、初めての相手であることから、このような気持ちになったと思われる。緊張のため、活動をうまく進めることができなかつたペアも多かったようである。

この活動を観察してみると、すぐに説明が終わってしまい、新しい説明をその場所で考える行うことはほとんどできなかつたようである。説明を継続できずに、すぐに教生の質問に頼り切りになるペアが多かった。質問を通して、新しい話題を提供すると、しばらく話せる生徒が多かった。質問に対して、一生懸命に答えようとする姿勢はよく観察できたが、うまく答えの表現を見つけ出して、問題を解決できた生徒はあまりなかつた。

“How do you borrow the books?”といった質問に対しての応答は、理解できない、また理解できても、どう答えてよいのかわからないペアがほとんどだった。借り方をよくわかっていない生徒もいるだろうし、日本語で説明できても、英語でどう説明すればよいかわからない生徒が多いと思われる。「話がかみ合っていないなかつた」「意味がわからないのに返事した」と

いう生徒もいた。また、「図書室には何冊本がありますか。」「『スラム・ダンク』以外にどんなマンガがありますか。」という質問に対しては、しばらくの沈黙の後、“I don't know.”と答えたり、沈黙のまま、次の質問を待ったりといった姿が見られた。図書館について詳しい情報を知らないことが原因だろうと思われる。最低限の知識は、事前に話し合ったり、調べておいたりする必要があった。

また、生徒は実際に図書室に立って、案内をしているのだが、指さしたり、歩き回って案内したりするという動きがとても少ないように感じられた。(1, 2のペアにこのような様子が見られただけである。) 具体的なものを指しながら英語で説明することは、案内して回る(Showing around)ということを意識させれば、生徒はもう少し説明できたのではないかと反省している。

図書室の案内からは離れることになるが、One-Minute Talk で使った表現(好きな本を尋ねるなど)を使い、会話を続けようとする生徒の姿が見られた。感想の中で、ある程度、沈黙なく話すことができたと書いている生徒のほとんどが、このように、図書室の説明以外の話題を話していたようである。2人で協力できたというペアの数は少なかったが、このような話題における協力であったと思われる。

図書室の案内は、ほとんどの生徒が難しかった、うまくいかなかったという感想を書いている。質問の意味を理解できない、最初の質問に答えられても、次の質問でつまづいてしまうという結果になったようである。

交流授業の1時間では、いくつかの部屋についての説明文を共同で考えさせたが、そこで学んだことを図書室の説明に生かすまでには至っていなかった。交流授業の直後に、得た知識を定着させる活動をし、続けて学校紹介の活動に入るべきであった。実際は時間の余裕がなく、事後の授業も9月下旬となってしまう、交流授業で得た知識を十分に生かすことができなかった。

「うまく協力できなかった」と書いている生徒が11名おり、一方の生徒に頼りきりになっていた場合が多かった。うまく協力できたとした生徒は8名おり、「友達が言葉につまったら、フォローできた。」「ペアの人とアイコンタクトをしたりして交互に話した。」といった沈黙が生まれた時に、どちらかが言葉を発するという協力が多かった。誤った理解をパートナーが指摘する、知識の面で相手をカバーする、質問に2人で答えるといった協力はあまり見られなかった。

(5) 交流後の授業(3年生:選択授業)

【選択授業1時間目(9月6日)】

① 目標をつかむ(10分)

まず、指導者がワークシートを配付したあと、生徒に活動のめあて「教生先生に英語で校舎案内をしよう」を示した。そのあとで以下の手順について説明した。

- ・教生先生は4名。教生先生一人当たり2ペアの生徒(計4名)がついて案内する。一つの部屋をペアが交互に担当する。
- ・教生先生は、自分のクラス配属の先生ではない初対面の方を担当することになる。よって、案内の前に、教生先生に名前をたずねることと自己紹介をすることを忘れないようにする。
- ・案内をする部屋や場所は、他の授業に迷惑をかけない指定された12箇所とする。
- ・教生先生は全く日本語は話さない。また、生徒の説明についてやその他の事項について随時質問をす

るので応じること。

- ・4グループができるが、それぞれ別々の階から指定されたルートで案内すること。
- ・本校の英語科教諭は職員室に待機して、そこで、評価する。
- ・案内が終わったら、教生先生と挨拶を交わして別れる。
- ・案内は、2時間目に行く。それまでに、名前のたずねかた、自己紹介、紹介する部屋についてのどのよう英語で表現するのかをまとめる。

考察：案内をする対象の教生先生がクラス配属の先生ではないと告げた瞬間に、生徒たちの緊張感がグッと高まったように感じられた。本来この活動は、ネイティブスピーカーで行うのが理想であったが残念ながら実現できなかった。しかしながら、できるだけ、ネイティブスピーカーに案内する状況に近づけたことから、初対面でかつ日本語を話してくれないという状況を設定した。このように英語を使うためのオーセンティックな状況が、生徒のやる気を引き出すのに重要なポイントになると感じた。

② 案内するための英語をメモ程度にまとめる (40分)

指導者から今日のめあてと手順を聞き終えたあと、与えられた課題について早速どのように表現するかを生徒は考えた。40分という短時間の中で、複数の場所についての英語を考えなければならないので、それを見たら英文が言える程度のメモをつくるようにして、以前実施した「職員室」の記述ほどまでは取り組まなかった。

考察：今までの活動を通して、どのような観点で部屋を説明することができるのかが少しずつわかってきたのか、どのペアも40分の中で説明できる準備はできていた。

【選択授業2時間目 (9月6日)】

③ 学校を案内する (45分)

4名の教生先生とは事前に打合せを済ませてあった。ほぼ、生徒に伝えた手順と同じではあったが、質問をどの生徒にも偏らないようにして欲しいとお願いした。教生先生には、授業開始と同時に教室に入ってもらい、すぐに、生徒と教生先生を引き合わせて活動を開始した。英語科教諭は職員室へ移動し、それぞれのペアがやってくるのを待った。この活動は、通常の時間割の中で実施したので、他クラスも授業中であった。巡回コースはなるべく、授業の迷惑にならないように選んだが、職員朝礼で趣旨を説明し、職員全員に協力を要請しておいた。

考察：相互に初対面であったので、程よい緊張感があった。クラス配属の教生先生であったら、「少しぐらい日本語で話してもいいや」という甘えが出たのかもしれないが、それができなかったと思われる。

生徒たちは、前の時間に準備したメモを見ながら必死に英語で説明を行なった。(写真4)

メモを手につくとどうしてもそれを読んでしまい、アイコンタクトが取れない状況になった。また、メモしてある情報だけでは話す内容が少なく、すぐに説明が終わってしまっていた。ただ、打合せどおりに教生先生が多くの質問を生徒に投げかけてくれたことが、生徒にとって大きな学びの場になったようである。



写真4

予想外の質問に対して、まずは、正確な理解力が求められる。教生先生が何を聞いているのかをしっかりと把握しなければならない。そして、的確に質問に応じなければならない。生徒を観察していると、冷汗をかきながら懸命に教生先生の質問を理解し、それに応えようとしていた。正確に理解できなくて質問内容を誤解してしまい、見当違いの応答をする場面も見られた。そんなときには、質問を受けていないパートナーの方が理解をしてアドバイスを横から与えたり、質問を受けていないペアが助けの手を差し伸べたりすることもあった。このような風土づくりが重要であると感じた。

また、質問に応える際には、流暢に話せる場面はあまり観察できなかったが、言葉を選びながら、慎重に対応していることが見て取れた。言葉が上手く出てこないときには、自然とジャスターが大きくなった。そのことで、教生先生に言いたいことが伝わったときに、ジャスターの重要性をしみじみと感じ取っていたようである。

④ 活動を振り返る（5分）

教生先生と挨拶をして別れたあと、今日の活動を中心に、一連の学習についての振り返りをした。

考察：生徒の振り返りをまとめたのが、p.145の資料4である。これをみると生徒のこの活動に対する思いが伝わってくる。「難しかった」「大変だった」「だめだった」などの気持ちを持った一方で、「もっとうまく伝えたい」「いろいろな単語を知りたい」「本当のネイティブと話してみたい」「正しく伝えられるようにしたい」「もっともっと勉強したい」「英語がうまくなりたい！」「次の機会に頑張りたい」「力を身につけたい」などと肯定的に感想を結んでいる生徒が多い。この活動そのものは、実際にネイティブスピーカーを案内したのではないので厳密には練習の域を出たわけではないが、知らない人との触れ合いや英語しか使えない環境が生徒たちには良い意味の刺激になったように思われる。

3. 1・2年生による異学年交流授業

(1) 交流前の授業（1年生：一斉授業）

自己紹介を書く：7月5日

- ・条件1. 授業内（20分間）で書き上げる。家には原稿を持って帰らない。
 - 2. 教科書、授業プリント、ビンゴブックを見ても良い。ただし、辞書や参考書は見ない。
 - 3. 先生や友達にわからない表現を聞いたり、教えてもらったりしない。自分で考える。
 - 4. 来週、発表するための原稿になるので、そのことを考えて書く。ただし、この原稿は持たずに暗唱して発表する。
- * 2年生との交流授業（自己紹介の練習）を行うまでは、発表の仕方などについては、あえて授業では詳しく触れない。
- * なお、生徒が書いた自己紹介のごく一部をp.150の資料9「自己紹介文を書こう！」に掲載した。

(2) 交流前の授業（2年生：選択授業）

【選択授業1時間目（6月26日）】

2年生選択は、1つを小川が、もう1つを三田が担当しているが、この授業は7月の交流授業に備え、チームティーチングの形で行った。小川が担当する選択授業の生徒が今回、この交流をすることとなった。2年生の一斉授業は三田が担当しているため、両指導者は2年生にとっては、よく知っている先生ということになる。

① 目標をつかむ

まず教師が7月10日の交流授業までの流れを説明した。今日の選択授業では4月に行った各クラスでの自己紹介のビデオを見て、話し合い、1年生への自己紹介のために自己紹介の原稿を書き直し、練習する。7月の交流授業では、小グループに分かれ、お互いの自己紹介を聞き、アドバイスを送り合う活動をしていくことを詳しく説明した。

選択授業では、「自己紹介をよりよいものにしよう」という目標を示し、4月に行った自己紹介をもとに1年生により分かりやすい自己紹介をするための作業や練習をしていくこと説明した。

考察： 普段一緒に授業をしたことがない1年生に自己紹介を行うということを話す生徒にはやはり戸惑いや緊張感が感じられた。しかし、一方で1年生に分かりやすく自己紹介をしたいという生徒、4月に行った自己紹介にもう一度挑戦し、改善するチャンスが与えられたことを喜ぶ生徒の様子も見て取ることができた。

② モデリングをきく

次に、指導者2人の自己紹介を聞かせた。Show & Tellの形を意識し、2人の小学生時代の写真を示しながら、生徒の知らない情報（2人が幼なじみだったこと）を以下のように紹介した。

OM: Good morning, everyone!

M: I'm Mita Kohei.

O: My name is Ogawa Masakiyo.

M: I'm an English teacher at Fuzoku Junior High School. I teach the eighth graders.

O: I teach English at Fuzoku Junior High too. I teach the students in the seventh grade.

M: I have taught at Fuzoku for four years and a half.

O: I've taught here for three and a half years.

M: I lived in Tera-machi when I was a child.

O: I lived in Tera-machi too. My mother lives there now. I moved to Nagasaka about two years ago.

M: When I was a little boy, I went to Sakuragi Kindergarten.

O: Me too. We went to the same kindergarten. My brother Koichiro also went to Sakuragi Kindergarten.

M: Koichiro-kun is one of my best friends. We all went to the same elementary school. I'll show you a picture. This is Koichiro-kun. Who's this? It's me! This is Mr. Ogawa!

O: We were students at Izumino Elementary School.

M: Koichiro-kun and I are 39 years old.

O: I'm 36 now.

M: Koichiro-kun lives in Fukui, doesn't he?

O: That's right. He lives there with his wife and son.

M: When we were elementary school students, I often went to his house in Tera-machi.

O: He and my brother played baseball. They were in the Izumino Freshers.

M: Did you play baseball, Masakiyo-kun?

O: No, I didn't. Kohei-san, you called me Masakiyo-kun?

M: Yes, Masakiyo-kun. You called me Kohei-san!

M: I usually call him Masakiyo-kun, but I call him Ogawa-sensei at school.

O: I usually call him Kohei-san, but I call him Mita-san at school.

OM: Thank you for listening.

考察: 生徒は指導者2人を知っているのに、名前など生徒が既に知っていることを紹介するのは不自然だった。生徒の知らないことに焦点をしばって、この授業でするにふさわしい内容とすべきだった。

生徒の意見にもあった物や写真などを見せて、1年生に分かりやすく説明する方法を具体的に示すことができた。生徒は、指導者の昔の写真に驚き、Show and Tellの形式の分かりやすさについても再認識していたようである。自分の自己紹介で物を示したり、写真を見せたりする生徒も多くなった。

ジェスチャーや、大切なところを強く、ゆっくり言う、つづりなどを言うことについては、具体的なモデルを示すことができなかった。自己紹介で注意すべき点については③の活動で生徒から出てくることになるので、具体的なポイントを黒板などに示してから、指導者のモデリングを聞かせる必要があった。

③ 4月の自己紹介発表ビデオを見て、考えよう。

最初に、4月の自己紹介の発表ビデオを見て、以下の3つの点について自分と友達の自己紹介の良かったところ、改善したらよいところを紙に書き、その後、全体の前で意見を交換させた。

ア 4月にした自己紹介をよりよいものにしていくためにはどうしたらいいだろう？

イ 1年生にわかりやすくするにはどうしたらいいだろう？

ウ 1年生の前で、緊張しないためにはどうしたらいいだろう？

考察: ア 4月にした自己紹介をビデオで振り返ることによって、発表するときの表現の仕方については、生徒は細かな点にまで気を付けて、改善点を見つけることができていた。声の大きさ、物を見せる、はっきり言う、ジェスチャーをつける、アイコンタクトをする、強弱をつける、「ええと」などの日本語を入れない、笑顔、英語らしさ、話題を1つにする、緊張しないなどのポイントがあがっていた。

イ 自己紹介の内容については、難しい単語を易しく言い換える、知らない単語を使わない、1年生が理解できる単語を使う、説明を付け加えるなど、4月に書いた原稿の手直しが必要だという意見が多かった。絵や写真、実物などを使ってわかりやすくする、ゆっくり話す、相手の表情を見ながら話すといった発表の仕方の面でも意見が出ていた。

ウ 生徒からは、繰り返し練習すること、練習で笑顔・リラックスを心がける、ジェスチャーをしながら身体をほぐすなどの意見が出ていた。

これらの改善すべき点については、生徒から比較的簡単に出てきた。ただし、これらの改善点があったからと言って、自動的に自己紹介の発表がよくなるかというと、そうではない。聞き手のことを考えた「優しい話し手」をどう育てるかという課題が見えてきた。

【選択授業2時間目（6月26日）】

④ 自己紹介の練習

4月につくった自己紹介の原稿を返却し、③のイで出てきたことをもとに、1年生のための自己紹介に書き直す作業をさせた。実際の練習は、③のアで出された改善点を意識しながら、これまでの研究の

成果を生かし、個人→ペア→小グループ→全体と聞き手の人数をしだいに増やし、緊張になれるような流れを取り入れた。(4月の自己紹介の発表の際にも、この方法で練習を行った。)

考察： 生徒は、2年生用に書いた原稿を1年生に分かる表現に書き直したり、自己紹介の内容をもう一度見直し、1年生に合わせたものにしたりにしていた。1つのことについて、さらに詳しい内容を付け加えて、分かりやすくしたり、ある語を説明するために、教科書にあった What is ~? を参考に聞き手に問いかけるような表現を取り入れたりする生徒が見られた。多くの生徒が、短時間でこの作業を終えて練習に入っていた。(p.151 資料11 参照)

4月の自己紹介は、自己紹介の文を書き、それを暗唱し、クラス全体の前で発表する形をとった。今回の活動でも、新しい発表原稿をつくった生徒は、早速個人でこの原稿を覚える作業を始めた。この「暗唱する」という作業が発表の自然さを邪魔する要素になっているように感じた。つまり、覚えた内容を一生懸命に思い出し、再現しようとするがために、発表が不自然でぎこちないものになってしまうということである。本来、よく知っている自分のことを発表するのであるから、発表する内容は完全に自分のものとなっているはずである。ただ、生徒はそれを「英語で話す」ことに抵抗や障害を感じており、「英語を覚える・思い出す」という行為に走るものと思われる。生徒は原稿に書いた正確な英語を正確に再生しようと努力しているようであるが、多少は正しい英語でなくてもよいから、自然な自己紹介をする方に力点を置いて発表をさせることも大切であることも重要であると感じた。頭の中にメモ程度のものを準備して、多少、即興的に話すくらいでちょうど良いという思いがした。

⑤ 振り返り

今日の活動の振り返りと交流授業を前にしての抱負を書いた。

考察： 今回の授業では、4月のビデオを見て意見を交換すること、友達と練習しながらアドバイスを送り合うことの2つの学び合いの場面があった。p.147~148の資料7-1,2「同学年グループ活動後の評価」からいくつか感想を取り上げてみたい。

- ・みんなの考えなどを聞いて自分の発表をより良くすることができた。
- ・友達のアドバイスで今後、どのようにしたらよいか分かった。自分の意見と違った意見を聞くことができた。
- ・ほめられて自信を持つことができた。
- ・(友達から) 少しずつ発音や強調、大きさなどを言ってもらい、改善できるようになった。
- ・他の人の発表を見て具体的にどこがよくてどこがだめなのか観察できた。
- ・相手のいいところを見つけられたことがよかった。友達の自己紹介でいい文章をメモして使えばよかった。

生徒は友達と協力して学ぶこのような授業を通して、自信をつけ、自分の発表を見つめ、もっとよくしていこうとする気持ちを高めていることが分かる。友達からの励ましを受ける喜びはもちろん、アドバイスしてあげることに喜びを感じる生徒もおり、温かい学び合いの場となったようである。

「異学年交流前の心構え」については、資料7-1,2 にまとめた通りであるが、「話し手としても聞き手としてもしっかり活動したい。」「先輩としてしっかり1年生にアドバイスをしたい。」「1年生からのアドバイスも素直に受入れたい。」といった抱負からは、発表はもちろん、いろいろな点において真面目に活動して、先輩として見本となれるようにしたいという思いが読み

取れる。

この他に、「しっかり目を見て聴く」「相手の言葉をよく聞いて」「しっかりと話している人の顔を見て聞く」「1年生の話をちゃんと聞く」「しっかり真面目に聞く。うなずいたり、反応を示す」といった「よい聞き手」としての心構えを書いている生徒が多かった。「1年生に分かりやすく話したい」「和やかな雰囲気で授業ができるように気を配る」「優しく相手が傷つかないようにアドバイスする」などと共に下級生に対する優しさが表れたものが目立った。

(3) 交流授業 (7月10日)

授業の流れは、p.146 (資料6) の学習指導案を参照していただきたい。

考察: p.112とp.113に述べた異学年交流のねらいに沿いながら授業を考察し、課題点について述べていきたい。

① 上級生がどこまで下級生に関わることができたのか?

2年生が1年生に対してアドバイスをする場面では、多くの生徒がしっかりできたと感じている。「アドバイスを取り入れてくれて、『ちゃんと聞いてくれているんだな』と思い、うれしかった。」と喜びを感じる生徒もいた。また、「1年生の自己紹介がとても分かりやすくて感心した。」「逆に私の方が1年生の自己紹介からいろんなことを学んだ。」と1年生の良さを積極的に認めるアドバイスもあった。

多くの2年生が1年生からのアドバイスを積極的に受け入れることができた様子も、「1年生のアドバイスを受けて自分も上達できた。」「物を見せたことをほめられて、すごいうれしかった。」という感想から読み取れた。

一方、2年生が各グループで雰囲気づくりをしたり、司会の役割を果たしたりするといったことはうまくいかなかった。授業の初めにグループの雰囲気をよくするアイスブレーキング・ゲームが必要であった。また、司会としてどのようなことをすればよいかを指導しておくべきであった。この点は指導者の準備不足であった。

p.147~148の資料7-1,2を見ると、1年生は2年生から良いアドバイスをもらうことができた様子がわかる。

しかし、1年生から2年生へのアドバイスは、遠慮や緊張から思うように言えなかった生徒が多かったようである。1年生は、2年生へのアドバイスもしっかりと書き込んでいるのだが、実際にはそれをあまり2年生に伝えられなかったようである。

② 上級生が手本となることができたか? (下級生はどこまで上級生を目標の存在として認識したか?)

p.149 (資料8) に1年生から2年生へのアドバイスをまとめてあるが、1年生が細かなポイントについて、様々な良い点を見出していることが分かる。「パーフェクト」「1年生と違った」「さすが2年生」「すごかった」「英語が上手!!」「さすが2年生だと思うほどうまかった。」「2年生はやっぱり上手でした。」といった言葉からもわかるように、1年生のお手本になる発表を成功させた2年生がほぼ半数あった。

1年生のアドバイスの中で、特に目立ったものが、話すスピードが速すぎるという点である。発表の様子を観察してみると、上手に英語を話そうと、ある程度のスピードで話すことを意識している生徒が多かったようで、話すことを得意とする生徒にこのような指摘を受ける生徒が多かった。2時間目の発



2年生の発表

表の後でも、「でも、1年生にはまだまだ速く感じられたみたいでした。」という感想もあった。理解を確かめながら、相当ゆっくり話さないとわかってくれない1年生もいることが2年生にわかったようである。しかし、1年生の感想の中には、「2年生は勉強をしてきているから、かまないし、すごく速い」といった感想も見られ、1年生の学力差によるものも多いと思われる。



1年生の発表

声が小さくて聞き取りにくいという指摘も特に2年生の男子に目立った。「緊張してしまった。余裕がなかった。」という2年生の感想もあった。また、2時間目の授業でも、その点を改善できておらず、「相手に自分のことをしっかり伝えよう」という思いに至らせることができていないことが原因であろう。指導者の工夫や研究が不足しているところである。

2年生の感想の中には、「自信をもって発表できた。」「恥ずかしがらずに発表できた。」「物を見せる時間がゆっくりできた。」といったものもあり、余裕をもって発表

表ができたと感じている生徒が多かった。

今回の交流授業は、2年生にとっては2時間連続で、同じ内容の授業を1年生の2つのクラスと行った。p.149の資料8に1年生のアドバイスをまとめてあるが、1時間目と2時間目のアドバイスを比較してみると、ほとんどの2年生が問題点を克服したり、上達したりしているのがわかる。2時間目の方が落ち着いて活動できたこと、1時間目の活動の経験を生かして活動できていることが原因であろう。こうした経験の積み重ねの大切さを思い知らされた。

③ 整理すべき課題点

p.120で述べた2・3年生の交流授業から見えてきた課題点を改善すべく今回の交流授業に臨んだ。

「学びの深まり」については、お互いにアドバイスを送り合うという活動において、①と②で述べたような問題点が見えてきた。まだまだ「先輩として大きな手本となる発表を見せ、後輩を指導できる上級生を育てる」、「後輩があこがれをもてる上級生を育てる」必要があると感じた。

「生徒の配置」については、今回いすだけを使い、グループのメンバーができるだけ近づけるようにし、2年生が隣り同士にならないように工夫をした。

「班編制のあり方」については、改善の余地があった。今回の授業で2年生の生徒の様子を観察してみると、グループの中で司会者的な役割をして、班員をまとめることができる生徒は、自己紹介やアドバイスをする活動も積極的に行う傾向が見て取れた。積極的なコミュニケーションをとれる2年生がいるグループとそうではないグループには、班の活動の様子に大きな違いが見られた。どの班にも、そのような生徒を配置する班編成が必要であった。

④ 本当のコミュニケーション活動をめざして

この交流授業は、金沢大学教授 加納幹雄先生に参観していただき、アドバイスをいただいた。既に触れたものもあるが、以下にまとめてみたい。

まず、1・2年生が初めて一緒に授業をする際に必要だったことは、和やかな雰囲気づくりであった。授業の冒頭の指導者の自己紹介で、雰囲気づくりをしようと考えていたのだが全く不十分なものであった。アイスブレイキング・ゲームなどを取り入れ、疎遠な形式的な雰囲気が引きずられないようにすることは、この授業に必要な不可欠なものであった。

次に、冒頭の指導者の自己紹介がうまく機能していなかったことが問題であった。1年生にとっては、初めて教える指導者が、親しみを込めた自己紹介をできておらず、また1年生が歓迎されていることを十分に示せていなかった。初めて出会う1年生に対して自己紹介を行うという必然・自然さを出せる大切な場面であったが、これを生かし切ることができていなかった。これから行う自己紹介がうまくいくかどうか掛かった重要な場面であった。

もう一つは、生徒に話したい・聞きたいという「必然」がうまく示せていなかったという点である。今回の授業では、自分のことを知ってもらいたい、相手の自己紹介を聞きたいという気持ちに生徒がなっていないまま、授業を進めてしまうことになった。この授業は、知らない者同士が出会う場となっていたのだが、双方の中に本当に「伝えたい・知りたい」という気持ちが生まれていたかということに指導者は全く気にしていなかった。

このようなことが原因となって、本当にコミュニケーションをしているとは言えない喜びのない自己紹介＝覚えた英語を一方向的に言い放つような自己紹介になってしまった。今回の授業だけではなく、これまでの授業を振り返ってみても、同じようなコミュニケーション活動しかできていなかったのではないかという思いにさせられた。根本的で大きな問題として、これ以降の授業実践で常に意識していかなければならないことである。

(4) 交流後の授業（1年生：一斉授業）

① 自己紹介の発表：7月14日，18日

- ・条件 1. 1人45秒以内を目安とする。
- 2. 原稿を持たずに暗唱する。
- 3. クラス全員に届く声で発表する（教室のどこに座っていても聞こえる声で）。
- ・評価項目 1. 常に、アイコンタクトをとっているか。
- 2. 大きな声で、はっきりと言っているか。
- 3. なめらかに、詰まらず言えているか。
- 4. 内容量は十分か。
- ・所感と考察： 全体的な特徴として、以下の点が挙げられる。

○声の大きさはほとんどの生徒が充分であった。指導者が教室の一番後ろの端に立っていても、自己紹介の聞こえないことはほとんどなかった。普段の授業の様子を見ても、どの生徒も比較的声を出すことにはさほど抵抗がないように思われる。本校の生徒のうち、大多数は小学校の頃から英語の授業を受け、英語に慣れ親しんでおり、大勢の前で話す活動においてもあまり抵抗なく英語で発表している。去年、附属小学校での授業を参観させていただいたのだが、教師の質問や働きかけに多くの児童が積極的に挙手をし、答えていた。中学校でもこのような意欲的、能動的な姿勢を生徒が保てるよう、日々の授業を進めていきたい。

○まだ数はそう多くはないものの、ジェスチャーを積極的に試みる生徒もいた。ただ、評価項目にジェスチャーのことを明記していれば、より多くの生徒が取り組んだかもしれない。また、幾分大げさであったり、ぎこちないものもあり、聞いている生徒から笑いが起こる場面もあった。せっかく意欲的に取り組んだのに、笑われて恥ずかしいと感じた生徒もいたようなので、そのポジティブな姿勢、気持ちがなくなってしまうように、さらに指導をする必要性を感じた。

△読みがやや早くなってしまい、聞き取りにくい地名や自分の名前などの発音がいまひとつ不明瞭で

あった。完璧に暗唱できるほどの十分な練習をして来ずに本番に臨んだ生徒は、みんなの前で忘れてしまう状態を避けたくて、早口になってしまったのかもしれない。

*練習期間は土、日、月の3日間与えたのだが、授業中の練習時間の確保ができなかった。どう練習してよいかわからなかった生徒もいたと思われる。

△話しかけている（聞いてもらおう）というよりは恥ずかしいので早く終わらせたい、という印象を受けた生徒が少なからずいた。アイコンタクトにしても、取れていないわけではないのだが、形式的なように感じた。そう多くはないのだが、悪く言えば投げやりな感じを受ける生徒もいた。

② ALTとの Team Teaching による、自己紹介をよりよいものにする4つの基本的なスキルの練習。

: 9月中旬

*7月の自己紹介の反省から、生徒が比較的できていなかった、もしくは徹底させたいと思われる4点を取り上げ、ALTに良い例、悪い例などを示してもらいながらそれぞれの項目について主にペアで練習をした。

・手順

[1]自己紹介原稿を授業のはじめに返却し、その原稿を元にまずパートナーに向かってペアで自己紹介する。

・まず、何も意識せずにスピーチを試みる。授業の終わりに自分のスピーチが良くなったかを比較するため、あえて「こんなふうにして下さい」といった指示は出さなかった。

[2]スキル① Read and Look-up(アイコンタクト)を行う。(暗唱できればなお良いことも伝える)

・Read and Look upはアイコンタクトをとることを目的とするひとつの手段である、ということを確認する。

・できる人は聞き手が聞こえているか、わかっているかを確認する。

Can you hear me? Do you understand what I mean? など。

[3]スキル② Read clearly and loudly. (はっきりと、大きな声で読むこと。)

・はっきり、大きな声を出しやすく、また、相手に聞きやすくするために以下の2点を具体的な方法として紹介した。

→ Put pauses between sentences. (文と文の間に休止をおくこと)

→ Don't read too fast. (速く読みすぎないこと)

[4]スキル③ Tell your name more carefully. (名前をもっと注意して言うこと。)

→ Tell the spelling of your name to listeners. (自分の名前 [地名なども] のスペリングを聞き手に言おう)

[5]スキル④ Do some gestures. (簡単なジェスチャーを入れること。)

1. I, My ~ というときに、自分を指す。

日本人は自分の鼻を指すことが多いが、そうではなくて自分の胸の辺りを手で指す。

2. 物の数を言うとき、指を使って指折り数える。

3. Big, Littleなどは手や腕を使って表現できる。

* a little ちょっと (親指と人指し指で小さいものをつまむような感じで)

4. Tennis, guitar, pianoなどは簡単に手を動かせる。

5. I don't like ~ などの否定表現の場合、言いながら首を横に振る。I like ~などの肯定の表現

の場合、首を縦に振りながら言う。

・所感、考察

○スキル①の Read and Look up (アイコンタクト) に関して

本来、スピーチは暗唱を前提とするので Read and Look-up はあまり意味がないように思われるが、やはりどのクラスにも 5～7 名位、十分なアイコンタクトが取れていない生徒がいたこともあり、再確認の意味で行った。また、あまりにも基本的な事項なのでこの活動授業の最初に組み入れるかどうか、授業者は躊躇したのだが、実際に行ってみると意外と多くの生徒が「今まであまり意識してできていなかった」「アイコンタクトをしっかりとったほうが、ずいぶん印象が良くなることが分かった。」という感想を述べていた。

ただ、このような事実は、普段の教科書の Reading や Communicative Activity などにおいて、教科書や授業プリントを見ればなしで顔がなかなか上がらない状況を反映していると思われる。授業者としてあらゆる場面において、アイコンタクトをとる意識を生徒に植え付ける作業が不十分であったことを認めざるを得ない。指導者はこのような態度をスピーチの場面だけでなく、常に相手に話しかけるときに意識させるように取り組んでいきたいと考えた。また、前述の “Can you hear me?” や “Do you understand what I mean?” などは使っている生徒はまだほとんどいないので、今後の授業の中で、積極的な使用を心がけさせたい。

○スキル②の Read clearly and loudly に関して。

「はっきりと、大きな声で」ということを殊更に「スキルだ」といって取り上げることに多少の違和感を覚えながらも、ぜひ徹底させたいことなので、現状での問題点と具体的な方策を考えた。7月の自己紹介スピーチの内容が十分に聞き取れない原因として、「読みがやや速い」ことが非常に多くの生徒達から挙げられていた。今までの指導では「はっきりと読む」と言っても例を示す程度で、具体的な指示を出していなかったため、今回は「文と文の間に休止を置く」と「速く読みすぎない」ことの2つを具体的な目標に掲げ、取り組んでみた。スキル①の Read and Look-up により、アイコンタクトを取りながら、文と文の間を空けて、いつもよりゆっくり読むことで、普段より明瞭なスピーチになった生徒が増加した。この練習は、パートナーに自分の声ははっきり聞こえたか、速すぎなかったかをスピーチ後に確認する作業が不可欠であり、聞こえにくい場合は相手にはっきりとそのことを伝えるよう指示をした。実際には「休止を置く」「いつもよりゆっくり言う」ことを意識的にさせてみたところ、多くの生徒にとってさほど難しくなかったようである。パートナーから「速いよ、もう少しゆっくり言って。」「そこ何て言ったのか分からん。」などといった指摘はそう多くなかったように思われる。ただ、今後、文章量が増加したり表現が込み入ってきた場合には言い急ぐ場面は大いに予想され、指導の継続と発展が必要である。

○スキル③の Tell your name more carefully に関して

生徒たちは自分の名前や住んでいる町や市の名前が、正確に伝わりにくいことに気づいていなかったため、日本語での会話などで、自分の名前を間違われた経験がないかをまず聞いてみた。すると予想通り半数近くの生徒が、クラスによっては半数以上の生徒が電話での会話やなどでそのような経験をしていた。日本人同士の日本語のコミュニケーションでさえこのような状況なのだから、名前を伝えるのは案外難しいのだという意識を持たせてから、特に固有名詞を明瞭に話すよう指導した。ただしそれだけではまだ不十分なことが多く、自分の名前や町の名前などの後にスペリングを言うような指導を、以下のような簡単な dialogue を用いて指導した。

A : My name is Satoshi. S-A-T-O-S-H-I.

B : Your name is Satoshi, right?

A : Yes.

さらに、クラスの中でお互いに名前を言い合っても、もうすでに分かっている場合が多いので、その場で参観していた教育実習生に上記の dialogue の B さんの役で生徒と話してもらった。9 月は多くの教育実習生が実習に来ており、自分のことを知らない人に対して初めて自分の名前や住んでいる町の名前を伝えるという状況が設定できた。生徒たちはスペリングを教えるという単純なことだけでもその効果があるのだということを実感していた。時間があれば生徒にも是非 B さんの役をさせたかったのだができなかった。上記の会話においては B さんのほうが「あ、聞こえた。だから自分も聞く人にこんなふうと言ってあげればいいんだ。」という実感を得やすいと思われるので、機会を伺いたい。また、聞き取りにくいのは人名や地名だけではないので、今後は上記のような会話を発展させて、よく聞き取れなかった文や語に対して“Say it again, please.” “How do you spell ~?” などと尋ねるような練習も積極的に取り入れていきたいと考えている。

○スキル④の Gestures に関して。

自己紹介という場面において、可能なジェスチャーはそう多くない。また、動作自体も非常に単純な、自然に出てくるものが多く、無意識のうちに行っている生徒もいないわけではない。ただし、何の指示も出さないと、直立したままスピーチを淡々と終えてしまう生徒が多いのが現状である。そのようなことを ALT と話していたところ、「具体的に簡単なジェスチャーを教える。」ことを ALT が提案してくれたこともあり、どのようなものがあるかを ALT と考え、実際に例を示してもらうことにした。それが前述の 5 つである。どれをとっても難しくなく、生徒たちにとっても、取り組みやすいものであったようだ。また日本人が用いるが、日本人以外には通じにくかったり、違う意味に取られるジェスチャー（腕で×印を作る [否定の意味にはならないようだ]、手首を曲げながら仰ぐように手を横に振る [否定の意味を表したいのだが、ハエや虫を手で追い払っているのかと思われる]）や、日本人との方法の違い（自分を指すときに日本人は自分の鼻の辺りを指すことがあるが、それは Ask me. ではなく、Ask my nose. である、など。）についても簡単にいくつか説明してもらった。

日本人は body language を普段はあまり使わないので、生徒たちも多少照れながらも楽しそうに取り組んでいる姿が印象的だった。また、簡単なジェスチャーをひとつ、スピーチに入れるだけでも印象がずいぶん良くなるという感想が多く、「やってみてよかった」「またやってみたい」という肯定的な意見が多く聞かれた。今後は教科書の Reading や Communicative Activity など、スピーチ以外の場面でもより多くのジェスチャーを積極的に指導していきたい。

△所感

この Team Teaching の授業で行ったことはそう難しくなく、基本的なことばかりなのだが、生徒の反応、感想から考えると、それらのことは普段の指導で徹底されていない、鍛え切れていないと言うことができる。Communicative な態度を育成するには、その場限りの指導にならないように、上記のようなスキルの有用性を実感させる場面を授業の中に設定し、その意義を確認しながら継続的に取り組んでいくことが重要であると認識させられた。

なお、本時に使用した授業プリントを p.150 の資料10に掲載した。以下はプリント右側の「◆授業を終えて」の、生徒のコメントを抜粋したものである。

◆前向きな意見

1. Read and Look-up, アイコンタクトについて

- ・アイコンタクトをしたほうが相手に気持ちが伝わったと思う。外国人と話すときに使いたい。
- ・パートナーがしっかりアイコンタクトをしていて良いと思いました。
- ・ちゃんとアイコンタクトを取れていて良かった。
- ・目で見ることによって印象が残りやすかったし、分かりやすい。
- ・アイコンタクトはまだはずかしいから、慣れていきたい。
- ・自己紹介を良くするためのポイントで、アイコンタクトとはっきり、大きな声で読むことは当たり前なことだと思ったけど、これがなかなかできませんでした。でも、ちゃんと英語でも自己紹介ができるようになりたいです。
- ・やっぱりアイコンタクトが最も実際に使えそうだと思います。目を見るのは簡単だし、聞いてくれていると思えるからです。
- ・最初よりも分かりやすくなったと思います。相手の自己紹介を見て、自分は、アイコンタクトとはっきり大きな声で言うことがまだ下手だと思います。

2. Read clearly and loudly について

- ・文と文の間も取れていて良いと思いました。
- ・話しているときに **pause** を置いていなかったもので、これから使っていくようにする。
- ・ゆっくり、はっきりと言う。少し速いと思いました。

3. Tell your name more carefully について

- ・私はよく名前を間違えられるので、名前をはっきり言ったり、スペリングを教えることは役に立つと思います。
- ・少し面倒だけど、分かりにくい単語を言われたときに便利だ。
- ・スペルが違うだけで違う人になってしまうので、これからはスペルもちゃんと言おうと思います。
- ・自己紹介にここまで工夫する術があるとは思わなかった。本当にスペルを教える方法はいい。
- ・名前を間違えるのは失礼だから、こういうふうに言って間違いのないようにしたいと思いました。

4. Gestures について

- ・前にやったときに比べてわかりやすくなった。特に、ジェスチャーでわかりやすくなった。
- ・平井堅のジェスチャーはしやすかった。(この生徒は **I like Ken Hirai.** と書いていたので)ジェスチャーをすると、相手がどんな人か知らなくても、「そういう風に歌う人か…」と分かっていると思う。
- ・ジェスチャーのある自己紹介を聞いたら、周りがうるさくて少し聞きづらいときもわかりやすかった。顔の表情を見てもだいたい推測できて便利だった。
- ・実際には(ちゃんと通じたか)よく分からないけど、ジェスチャーで「(自分の住んでいるところが)あっちの方。」と指さしていたのが良かった。
- ・きちんとジェスチャーなどを入れると気持ちが伝わっていいと思いました。これからも使いたいと思いました。
- ・今までの紹介よりいいものになりました。特にジェスチャーは、やるのは少し恥ずかしいけど、見ているほうは見やすい。

5. 2つ以上のことを述べている意見

- ・やはりただ話すよりゆっくり話したり，体を使って分かりやすく話したほうが伝わりがよいと思いました。でも，日本人は目を合わさなかったりする人もいますのでそういうアイコンタクトは忘れないでよいと思います。
 - ・Read and Look-up はやるとかなり大変だけど，やってみたほうが相手としてはわかりやすいと思う。ジェスチャーも。
 - ・アイコンタクトやジェスチャーは，相手にされたときに結構うれしかったので，やっぱりかわると思いました。
6. その他，全般的なことについて
- ・最初に紹介した人よりも，最後に紹介した人のほうがすごく聞きやすくなっていました。(全部で3回パートナーを変えて自己紹介を進めていったので，1人は4人の相手に自己紹介をしたことになる。)
 - ・7月よりは何かうまくなった気がします。
 - ・自己紹介は思っていた以上に難しいと実際に感じた。
 - ・いろんなことを加えることにより，どんどん良くなっていくのが分かりました。道具などを使っていけばもっとうまくスピーチできると思います。
 - ・なんとなく分かっていることでも気をつけて意識してやるとあまり意識しないでやったときより確実に良くなった。
 - ・どんどん，スラスラといえるようになっていくので楽しかった。
 - ・実際にやってみて，前より相手に伝わりやすくなったような気がした。相手の人の人も良く聞こえるようになった。
- ◆中にはあまり肯定的ではない意見も聞かれた。
- ・楽しい。実用的なようではない。
 - ・みんな，アイコンタクトをしていなかった。
 - ・あまりこれから使えない気がする。ある程度勉強になった。
 - ・男子も女子も恥ずかしがって，なかなか大きな声が出てませんでした。
 - ・毎回やってたら疲れそう。

(5) 交流後の授業 (2年生：選択授業)

【選択授業1時間目 (9月25日)】自己紹介をしよう！～面接形式で話そう！～

① 目標をつかむ

先ず指導者が，これまでの4月：クラスでの自己紹介，7月：1年生への自己紹介に続いて，今日は教育実習の先生への自己紹介をすること，1時間目は説明と自己紹介の練習を，2時間目は自己紹介と先生の質問に答える活動をするを告げた。授業の進め方を次のように詳しく説明した。

- 1 テーブルに対面した教育実習の先生1人に対して自己紹介し，先生からの英語の質問に答える面接のような形で，原稿やメモなどは見ないで，自己紹介をする。
- 2 先生方に，すぐにアドバイスをもらう。
- 3 2回目の順番が回ってくるまで，しばらくアドバイスされたことについて練習する。
- 4 前とは違う先生にもう一度自己紹介をし，質問に英語で答え，すぐにアドバイスをもらう。
- 5 授業の振り返りをする。

今日の自己紹介は、7月の交流授業の課題を受け、次のような目標を生徒に示した。一方的に言い放つような発表から、相手を前にして、しっかりと気持ちを込めて話す発表へとレベルアップをめざしたものである。

◎ **ただ覚えた英語を言うのではなく、相手の理解を確認しながら、わかりやすく話そう。**

→声の大きさや速さに気をつけて話そう。

→言語以外のものを使って、工夫しよう。(アイコンタクト、ジェスチャーなど)

→英語らしく話そう。(強く/弱く読むところ、声の調子の上げ下げ、区切り)

スピーチを発表する活動で、「ただ覚えた英語を言う」ことは全く無意味であることを話し、将来英語がわかる相手に自分のことを紹介する時、笑顔や優しい気持ちをもって「相手の理解を確認しながら、わかりやすく」話せるように今までの自己紹介からレベルアップしていこうと呼びかけた。

続いて「相手の理解を確認しながら、わかりやすく」話すためには、①アイコンタクト、②間(ポーズ)、③スピード(ゆっくり目)、④声の大きさ、⑤英語らしさ、⑥理解を確認する英語(Do you understand what I mean?, Can you hear me?など)を大切にしなければならないと説明した。さらに、ジェスチャーを使ったり、名前の綴りを言ったりするなど具体的な行為によって「わかりやすく」なることを確認した。

最後に具体的なジェスチャーの練習をした。①自分のことを言う時に手で自分をさす、②数字を指で示す、③大・小(例えば兄、妹)などを示す、④否定の意味を顔の表情でも伝える、⑤スポーツなどを簡単な動きで表すとといったジェスチャーについて、1つ1つ指導者がやって見せ、全員で練習した。前述したとおり、これらは、同時期に行われた1年生の授業でも具体的に話したり、練習したりした。

② 自己紹介の練習

次に、自己紹介の練習に入った。生徒は、7月につくった1年生への自己紹介の原稿を持っているが、先程示した目標に従って、その原稿は使わず、またできるだけ「暗唱」をすることにとらわれないようにして、自分で決めたい内容に沿って話すように促した。生徒は、最初のうちは自己紹介原稿を見ていたが、繰り返し練習してきた内容でもあるので、次第に原稿に頼らずに、練習活動をしていた。

【選択授業2時間目(9月25日)】

③ 自己紹介をし、質問に答える活動

自己紹介の活動の前に、具体的な進め方を以下のように説明した。

- 1 部屋の前の廊下で、練習しながら自分の順番を待つ。
- 2 テーブルが4つ用意してあり、1回に4人が別々の先生に面接を受ける形式で自己紹介をする。
- 3 自己紹介後、先生の質問に英語で答える。(2分)
- 4 先生のアドバイスを聞き、プリントにメモをする。(2分)
- 5 廊下で、2回目の自己紹介に向け練習をする。
- 6 1回目の自己紹介が全員終わったら、1回目と同じように2回目の自己紹介をする。
- 7 授業の振り返りをする。

自己紹介の際、生徒は自分の担当している教生には自己紹介しないようにした。従って、よく知らない教生2人に自己紹介をしなければならない状況をつくりだした。教育実習生には、事前に以下のことをお願いしておいた。

- 1 最初に握手を求め、簡単なあいさつの後、名前を英語で紹介する。この時の声の大きさや、親密感

が生徒の自己紹介にも影響を与えるようである。明るい表情と声を心がける。生徒の自己紹介を楽しむ。

- 2 生徒の顔を見て、うなずいたり、笑ったりしながら、聞き手としてリラックスして自己紹介を楽しんでいるという反応を返す。
- 3 質問は、自己紹介の途中でせず、スピーチの終わった後にまとめてする。最初は、スピーチの内容について詳しく聞きたい点（例：兄弟の話題→兄弟は何人？ 何歳？ 名前は？など）について、続いて質問例を参考に時間いっぱい質問する。
- 4 自己紹介の終わった後、質問をする。返答に対し、さらに質問する形も入れる。
- 5 質問の終わった後、「自己紹介」場面と「質問応答」場面のコメント（良かった点、悪かった点とアドバイス：実際にやって見せてもよい。）をする。2回目に向けて練習するポイントなどを示す。

1回目の質問は、自分のこと（趣味、部活動、学習、生年月日、名前など）を、2回目の質問は、身の回りのこと（友達、家族、ペット、先生、住所、住んでいる町、夏休み、行ったことがある場所など）を質問するようお願いし、質問例もプリントにして渡した。

上に示した教生へのお願いは、教生に「よい聞き手」になってもらい、生徒が「よい話し手」となることを支援することを意図したものである。

④ 振り返り

最後に、自己評価を以下のように行った。

A：しっかりできた B：だいたいできた C：あまりできなかった D：できなかった

ただ覚えた英語を言うのではなく、相手の理解を確認しながら、 わかりやすく話そう。	A	B	C	D
→声の大きさや速さに気をつけて話そう。	A	B	C	D
→言語以外のものを使って、工夫しよう。（アイコンタクト、ジェスチャーなど）	A	B	C	D
→英語らしく話そう。（強く／弱く読むところ、声の調子の上げ下げ、区切り）	A	B	C	D

また、次の2点について記述の自己評価を行った。結果は、p.152の資料12にまとめた通りである。

- 1 今日の授業では、教生の先生のアドバイスを聞いて自分の自己紹介に生かすことができましたか。できなかった場合は、どうしてできなかったのかも振り返って、書きましょう。
- 2 今日の授業を振り返って、自分の自己紹介の良くなったところはどんなところですか。また、うまくいかなかったところはどんなところですか。うまくいかなかったところについては、その原因も振り返って書きましょう。

考察：「ただ覚えた英語を言うのではなく、相手の理解を確認しながら、わかりやすく話そう。」についての自己評価の結果は、A 7名、B 4名であった。この授業では、目標に近づけた生徒が多かった。この姿勢を10月から一斉授業の中で始める「1分間トーク」によって、継続・発展させたいと考えている。

自己紹介の場面では、ジェスチャーを使う様子がよく見られただけでなく、質問に答える場面でも、ジェスチャーを使う生徒が見られた。Do you understand what I mean? を使う機会はなかったようだが、I like Date Kimiko. Do you know her? という聞き手への質問がとても自然に出ていた生徒がいた。相手に問いかける姿勢と余裕（聞き手を大切にすの優しさ）が見て取れた。ジェスチャーなどを具体的に教え、練習させることはこれまでほとんどやって

こなかったが、生徒が練習したジェスチャーを使っている様子を見て、練習することの大切さを知った。一斉授業では、毎回の1分間トークでジェスチャーの練習にも力を入れていきたいと考えている。

これまでクラス全体の前でのスピーチ活動でも、言葉に詰まった時には、Well... Let me see... などの表現を使うように促してきたが、今回の授業のような質問に答える活動の中で生徒も初めて自然にこれらの表現を使うことができたようである。

依然として、覚えた自己紹介を言い放つだけになってしまう生徒、「原稿に書いたこと」を思い出しながら話そうとする生徒もいた。原稿に書いたことを思い出そうとすると、アイコンタクトができずに、よそを見てしまうという傾向が見て取れた。また、正しい英語で言わなくては…という思いが一番になり、聞き手を大事にするという目標に近づけない生徒もいた。

一方「ああ、もうスピーチ原稿に頼らずに、自分のことを気軽に話せばいいんだ。」という境地に至る生徒も観察できた。

今回の活動では、教生に「良い聞き手」になってもらい、話しやすい雰囲気をつくってもらった。生徒に、今回の教生と同じような立場に立たせたり、よい聞き手になるための訓練をしたりすることを通して、「よい聞き手」になることがお互いのコミュニケーションを円滑にする上で大事なことでありと気付かせたい。また、良い聞き手を育てることは、どんなことを話しても決して馬鹿にされないというクラスの雰囲気を育てることにもなると考えられる。クラスのみんなで学んでいこうとする「学びの交流」ができるクラスの風土づくりも毎回の授業で意識していかなければならない。あいさつができない、あいさつの声が小さい、発言の音が小さくクラスの仲間聞こえていないといったことも「学びの交流」ができていない証拠であり、大きな問題である。まず、相手の気持ちを考える優しい思いや雰囲気を普段から育て、そういった問題を解決していくことが大切なかもしれないと気付かされた。

4. おわりに（今後の課題）

昨年度の本校の研究では問題解決力を取り扱った。英語科では、3年生で行う Small Talk を中学校での最終的な目標として、各学年で取り組んだ。2年生では、Paraphrase する力を身につける活動を、1年生では「沢山の表現を身につける。経験を積み重ねる。」の2つを意識した活動を行ってきた。

今年度の3年生選択と2年生の交流授業では、「学校紹介」の活動を試みた。これは、ある部屋について、様々な表現を使って説明する Paraphrase する力を養う活動である。説明する文のアイデアを日本語で話し合い、3年生が中心となって英語でまとめるグループが多く見られた。これは、相手にとっては未知の日本の文化や考え方、具体的な物などを説明する際に必要な力の基礎を養うことにつながってくと考えた。

2年生選択と1年生の交流授業では、「自己紹介」の活動を試みた。お互いが自己紹介を発表し合い、日本語でアドバイスを送り合うという学び合いを通して、アドバイスを受けながら、自己紹介を何度も繰り返し、経験を積み重ねるという活動である。良く知っている自分のことを相手に分かりやすく説明するという活動は、どちらかと言うと、表現方法、スピーチの仕方に焦点を当てた活動となった。聞き手を1年生、2年生、教生と替え、聞き手の年齢や立場に合わせて、話す内容や話し方を変えることを学習してきた。

2年生と1年生の交流授業を通して、まだまだ聞き手の存在を意識していない話し方をする生徒が見ら

れることが分かり、学校の本来あるべき「学び合う」姿から遠く離れた生徒たちの姿にも気付かされることとなった。コミュニケーションの中の「相手のことを理解する」行為には、「相手の英語を正しく理解する」ということの他に、「心的に理解する」という人間的で暖かな理解があるのと同様に、「表現する」行為の中にも、「英語を正しく表現する」部分と、「人間的に、暖かく表現する」部分があることに気付かされた。この2つの表現を大切にすることが、生き生きと話す生徒を育成することにつながっていくことが分かってきた。

今後は、上で述べた課題を意識して、毎日の授業での実践を積み重ねていかなければならないと考える。具体的には、特に、以下の点を授業で意識していきたい。

- 1 毎日の学校生活において良好な人間関係を築かせ、維持していく。
- 2 毎回の授業において、誰も遠慮することなく発言し、それらを受容していくことができる「授業風土」をつくりだし、維持していく。
- 3 アイコンタクト、ジェスチャーなど、言語以外のコミュニケーションの手段が必要となる場面を授業の中で意図的に、多く設定し、継続的に評価していく。
- 4 聞く態度とともに、相手の言っていることなどが分からなかったときに「分からない」とはっきり伝えることや、分からないままにせずに聞き返すなど、「コミュニケーションの不成立を放置しない態度」を育成する。
- 5 「相手のことを思いやって聞く態度」とともに、「相手のことを思いやって話す態度」を育成する。
- 6 交流授業に向けての準備、必要な表現や語彙の先取り指導を、学習者の負担にならないように配慮しながら行っていく。

Let's show around our school!

Class No. Name

1. What is "show around" in Japanese? (= How do we say "show around" in Japanese?)

案内する

2. What do we do when we show around our school?

Example

This is the assembly room. There are about 200 seats in this room. There are ten computer too. We come to this room when we have a comprehensive class. We use a computer to get some information and to write our report and to draw or paint a picture. Also we sometimes come here to meet our teachers talk.

3. Before showing around our school, we have to learn what we should call each room in English. Let's look up the words in a Japanese-English dictionary. Do it with your partner.

[the first floor]

Japanese	English	Japanese	English
技術室	technique room	二階	school store
生徒会室	student council	相模ホール	assembly room
相談室	counseling	更衣室	dressing room
パンソー	pantry	ミーティングルーム	meeting room
武道場	martial arts room	トイレ	toilet

[the second floor]

Japanese	English	Japanese	English
普通教室	class room	理科室	science laboratory
保健室	nurse's room	調理室	cooking room
体育館	gymnasium	制服室	clothing room
職員室	teachers' room	校長室	principal's office
事務室	clerical room	school office	
トイレ	toilet room		

[the third floor]

Japanese	English	Japanese	English
普通教室	class room	コンピュータルーム	computer room
会議室	conference room	放送室	radio station
図書室	school library	トイレ	

[the fourth floor]

Japanese	English	Japanese	English
普通教室	class room	音楽室	music room
美術室	art room	トイレ	toilet room

laboratory • teacher's room

研究室 (実験室)

4. When you show around the teachers' room, how do you say in English? Think and write with your partner.

There are 24 teachers in this room. There are desks and printing machines. It on the second floor. The teachers do morning gathering at 8:25 in this room. When the students have a question, they come this room to ask it to teachers. Teachers have a break between class.

5. Listen to your friends' explanation, and rewrite your guide.

[memo]

• We mustn't go in there before test. Because they're making a test at the same time.
 • They use each computer to work.
 There are 24 teachers in this room. They use each computer to work. And they do morning gathering at 8:25 there.
 This room on the second floor. There are desks and printing machines.
 When the students have a question, they come this room to ask it to teachers. The teachers have a break there when they have no class. We mustn't enter there before tests. Because teachers making tests.

6. How do you feel about today's class? Did you do well with your partner? What do you think of your friends' explanations? Write it down in Japanese.

自分の考えにプラスして、パートナーの考えも付け加えていくと、納得のいく文章ができて、お互い協力して活動ができたと思います。また、一人で考えたりも、2人の方が次々と表現ができてきて、その向いた部分でも、英語の勉強に役立ったと思います。文章も読んだりも、自分が考えた表現で、文法作っているのがすごく楽しかったです。

7. On July 6, you are going to do the same thing as today's activity with 8th graders. How do you want to behave as seniors? Write it down in Japanese.

2年生より1年分多く勉強しているのでも、2年生に、できるだけ教えてあげられる様にしたいです。さすや3年生!! と思われれる様な態度、行動をしないと思いきいます。緊張せず、積極的に話しかけていきたいと思います。

子供たち / 作華

異学年交流学習活動 自己評価 一覧表

同学年グループ活動後の評価	異学年交流前の心構え	異学年交流後の自己評価(3年)	異学年交流後の自己評価(2年)
【Aさん】 友達のものを見て自分にはないアイデアがたくさんあっておどろいた。一つのことについて説明するのは中々難しいけど、英語力がつきそう。	しっかりと教えてあげる。積極的に活動に加わる。相手の意見もしっかりときく。	なかなかうちとけて話すことができなかったけど、英語で音楽室を紹介する時に、2年生がたくさんアイデアを出してくれたのは、うれしかった。つづりなども、もっと聞いてもらえたら教え(ら)れたので、ぜひ、もっと3年生に話ししてもらいたかった。	・今までは先輩の人たちと一緒に授業をしたことがありませんでした。学年が違いアイデアもちがったので、やってよかったと思う。(OO) ・2年全員が交代で、日本語→英語を聞きました。4の所では自分たちでやってしまっただけで3年生とのコミュニケーションをとれなかったのが反省点です。他の学年とやるとコミュニケーションの壁があるということが分かり、まだまだ英語で話すという恥ずかしさがあるとあらためて実感しました。(OO) ・先輩とあまりはなすことができなかった。先輩だけで進めているとき、2年生だけで進めていることがあった。最初の自己紹介からはずかしがらずにしゃべれたらよかった。(OO) ・できました。説明のときは2年生がしたので文法とかあっているか不安だったけどできた。部屋の言い方を教えてもらいました。(OO) ・できた。4番はほぼ2年生が中心になって考えた。1番はほとんど自分からなかったから教えてもらえてよかった。これまで習った文章の作り方を教えて楽しかった。3年生との授業は初めてだったけど、みんな普通の時より静かで集中できたし、結構沢山意見を言うことができた。(OO)
【Bさん】 最後に自分の考えた文を書いて情報交換ができて、自分にはないアイデアがあってとても良かった。	2年生が困っていたら助けてあげたり、しっかりと授業を聞いて、その姿を2年生に見せる。	英語で初めて他の学年と交流してうまくできなかった点もあるけど…経験になりました。他の学年の人の考え方にもふれてとても感心(関心)の持てる授業だったと思います。	・先輩からいろいろ教わることができた。アイデアを発表することができなかったのは、あまりアイデアが浮かばなかったから。楽しかった。(OO) ・3年生の人達といっしょにすることで、より英語が良く分かりました。(OO) ・説明などをしっかり聞いたりすることはできたと思う。自分の意見はあまり伝えることができなかった。理由:先輩達ができていてひっぱられていたから任せきりだった。先輩達の教え方が分かりやすかったです。(OO) ・先輩のアイデアとかで、4番とかはたくさんできたり、自分の意見は、言うことができたけれど、あんまり英語に訳せなかったのもっと英語を使えるようになったらいいと思います。でも、4番とかでもいつもより沢山意見を言うことができて良かった。(OO) ・先輩たちは私たちに以上表現方法を知っていた。だから、私は「このように(4のこと)説明すればいいのだなあ。」と思った。9月の英語で学校紹介も今日教わったことを参考にしていきたい。先輩たちが教えてくれた以外にも表現方法があると思うので、夏休みに研究したいと思う。(OO)
【Cさん】 日本語で説明するだけでもあまり思いつかなかった。他の人からたくさん良いアイデアがもらえて、すごくなった!!!	1年多く英語を勉強しているから知っていることをたくさん教えたい。ただ教えるだけではなく、一緒に考えたりできると思う。	この前の練習の時と同じで、あまり日本語の文が思いつきませんでした。聞いたり、聞かれたり…という感じで一緒に勉強できたので良かったですと思います。あまり意見も言えなくて、とても頼りなかったと思うけど、楽しかったです。	・先輩からいろいろ教わることができた。アイデアを発表することができなかったのは、あまりアイデアが浮かばなかったから。楽しかった。(OO) ・3年生の人達といっしょにすることで、より英語が良く分かりました。(OO) ・説明などをしっかり聞いたりすることはできたと思う。自分の意見はあまり伝えることができなかった。理由:先輩達ができていてひっぱられていたから任せきりだった。先輩達の教え方が分かりやすかったです。(OO) ・先輩のアイデアとかで、4番とかはたくさんできたり、自分の意見は、言うことができたけれど、あんまり英語に訳せなかったのもっと英語を使えるようになったらいいと思います。でも、4番とかでもいつもより沢山意見を言うことができて良かった。(OO) ・先輩たちは私たちに以上表現方法を知っていた。だから、私は「このように(4のこと)説明すればいいのだなあ。」と思った。9月の英語で学校紹介も今日教わったことを参考にしていきたい。先輩たちが教えてくれた以外にも表現方法があると思うので、夏休みに研究したいと思う。(OO)
【Dさん】 教室名を英語で言ったり、書いたりする機会がなかったのが楽しかった。教室を説明すると言っても、何を言おうか分からなかったりして、自分はまだまだだと思った。皆、自分と同じ時間でたくさんのことを考えていて、どれも習った単語や文法で分かりやすくなっていて、すごいと思った。	ハキハキとしゃべる。分からないところは教えてあげられる位、余裕を持つ。あいさつをしっかりして、カッコ良く、知っている単語や文法は多いのだから教えてあげられるようにする。	思っていた以上に、初対面の子と話すのは大変でした。英語だから特に、この前は、2人で考えたので(同学年の子だし…)、2人がわかればそのまま使えたけど、今日は、7人と多い人数で、文法も自分より習っていない子なので、どんな風に表現するのかわからなかった。	・先輩の話は、すごく分かりやすかった。みんな緊張していたようで、あまり元気がなかったけど、すごく良い活動だったと思う。優しい先輩だったので、自分の意見も少しだけ言えました。(OO) ・全体的にできた。先輩のように英語ができたらしいと思った。(OO) ・3年生の説明とかの言葉が難しかった。(OO)と校長室の事は知らなかった。でも勉強になったと思う。(OO) ・3年生の人達がちよこちよと指示を出してくれたので、なんとかできたと思う。その指示を聞いて私たちが意見を言い合ったりできたのでうまいと思った。自分からはあまり発言しなかったけど、先輩や2年の人の話や考えを聞くことはした。(OO) ・先輩はコンピュータ室の説明の文を考えるときにポンポン文がうかんできて流石だなあと感じました。職員室の説明も発音がきれいで分かりやすかったです。私は文を考えるときは頭が働かなくなると何も思いつかなくなるので、がんばってほしいです。学校の各場所も早く覚えられたらいいです。(OO)

同学年グループ活動後の評価	異学年交流前の心構え	異学年交流後の自己評価(3年)	異学年交流後の自己評価(2年)
【Eさん】 学校のいろいろな教室の名前を調べることが意外と大変だった。難しいのもあったし、すごく簡単なものもあった。いろいろ知ることができてよかった。職員室についての英文は日本語の文章があまり思いつかなくて困った。でも、英語は意外と知っている単語でできたのでよかった。友達がいることで自分が思いつかなかった表現方法を知ることができ、友だちとするのはいいなと思った。	騒がないで、やさしく教えてあげる。分からないことがあっても先輩に聞かない。一生懸命考える。頑張る!!	知らない人ばかりだったから、会話が止まったりしたけど、私たちの言うことを素直に聞いてくれたので、やりやすかった。私が2年生のとき、こんなにはできたかな?と思うくらい英語ができていたと思う。少し時間が短かったけど、まあまあ活動できたと思う。「校長室」はむずかしかったです…。2年生がいろいろ意見を出してくれて助かった。	・先輩の話は、すごく分かりやすかった。みんな緊張していたようで、あまり元気がなかったけど、すごく良い活動だったと思う。優しい先輩だったので、自分の意見も少しだけ言えました。(OO) ・全体的にできた。先輩のように英語ができたらしいと思った。(OO) ・3年生の説明とかの言葉が難しかった。(OO)と校長室の事は知らなかった。でも勉強になったと思う。(OO) ・3年生の人達がちよこちよと指示を出してくれたので、なんとかできたと思う。その指示を聞いて私たちが意見を言い合ったりできたのでうまいと思った。自分からはあまり発言しなかったけど、先輩や2年の人の話や考えを聞くことはした。(OO) ・先輩はコンピュータ室の説明の文を考えるときにポンポン文がうかんできて流石だなあと感じました。職員室の説明も発音がきれいで分かりやすかったです。私は文を考えるときは頭が働かなくなると何も思いつかなくなるので、がんばってほしいです。学校の各場所も早く覚えられたらいいです。(OO)
【Fさん】 自分たちの思いついた日本語をうまく英語に直すのが難しかったです。でも、お互いに辞書を活用して調べたら分からない単語とかも見つけることができました。次回の2年生との活動もがんばりたいです。	先輩らしく、やさしく、分からないところを教えてあげられたらいいです。	2年生とはあまりかかわりがなかったのですが、緊張したけれど、協力して活動することができました。また、アイデアがないか聞いてみたら、いろいろとアイデアを出してくれたので助かった。難しかったけれど、協力したらいい文章ができたと思う。	・先輩は辞書(電子)を持っていたので、借りた和英辞書はあまり使いませんでした。先輩たちは英語ペラペラで、聞いていてすごいなあと思いました。自分のアイデアは言ったけど、取り入れてもらったのはわずかででした。(OO) ・みんなで単語を調べたりすることができた。聞いていたけれどよく分からない単語がたくさん出て来てよく分からなかったけれど、自分もあれくらい話せたらいいなあと思いました。自分のアイデアは思いつかなかったのでもういいです。(OO) ・先輩たちの話がわかった。わかりやすかった。(OO)
【Gさん】 まず、職員室を日本語で表現するのが難しかったです。当たり前のことすぎて何と言っているかわからないことがたくさんあった。「夏は涼しくて冬は暖かい」と書いた人がいたけど、その部屋にある物だけを紹介するのではなく、そんな視点もいいなと思った。	会話がとぎれないようにリードしていきたい。3年生すごい、と思われるように行動したい。	生徒玄関を紹介するのはとても難しかったです。日本語でもあまり思いつかばなかったけど、2年生がアイデアを出してくれて良かった。3年生だけでやってしまったようなところがあったので、もう少し相談しながらうまくやれたら良かった。	・先輩は辞書(電子)を持っていたので、借りた和英辞書はあまり使いませんでした。先輩たちは英語ペラペラで、聞いていてすごいなあと思いました。自分のアイデアは言ったけど、取り入れてもらったのはわずかででした。(OO) ・みんなで単語を調べたりすることができた。聞いていたけれどよく分からない単語がたくさん出て来てよく分からなかったけれど、自分もあれくらい話せたらいいなあと思いました。自分のアイデアは思いつかなかったのでもういいです。(OO) ・先輩たちの話がわかった。わかりやすかった。(OO)
【Hさん】 部屋(職員室)の説明をするとき、何を説明すればいいのか、あまりうかがいませんでした。説明する難しさをとても実感しました。また、思いついた説明の文を、何とか英語にしようとするのが心げました。他の班では、結構多くの英文を書いていたので、その発想をかりて自分の知識に結びたいと思います。	質問をされたら答えることができ、1年多くの知識をもっていることを活かして教えられたらいい。	時間も限られているため、なかなか多くのことを教えたり、相談したりはできなかったのですが、残念でした。学年の壁を越えた授業の場合は、上の学年が積極的に考え、それを下の学年に伝えてあげることが大切だと思います。あまりこういった機会がないので良い体験だったと思います。2年生の考え方も知れて良かったです。	・先輩は辞書(電子)を持っていたので、借りた和英辞書はあまり使いませんでした。先輩たちは英語ペラペラで、聞いていてすごいなあと思いました。自分のアイデアは言ったけど、取り入れてもらったのはわずかででした。(OO) ・みんなで単語を調べたりすることができた。聞いていたけれどよく分からない単語がたくさん出て来てよく分からなかったけれど、自分もあれくらい話せたらいいなあと思いました。自分のアイデアは思いつかなかったのでもういいです。(OO) ・先輩たちの話がわかった。わかりやすかった。(OO)

同学年グループ活動後の評価	異学年交流前の心構え	異学年交流後の自己評価(3年)	異学年交流後の自己評価(2年)
<p>[Iさん]</p> <p>この学校にあるいろいろな部屋の英語名やバントリーの由来を知ることができ、すごく楽しかった。今日、学んだいろいろな教室名を使って、外国人相手でも、この学校をわかりやすく教えたらしいなと思う。</p>	<p>二年生のわからないところがあつたら、教えてあげれるところは教えてあげようと思います。でも、もし二人とも分からないことがあれば、お互い学んで、学びを深めたいです。また、やはり、先輩として、少しは二年生より知識がないと恥ずかしいので、それまできちんと勉強しておこうと思います。</p>	<p>自分たち(3年生)だけで、話しを進めてしまったような気がする。でも、石こう像の梁や音楽室のとなりにあるという梁は2年生からもらうことができたので、まあまあ交流授業だったと思う。また、先輩らしくいろいろ言っておいたり、教えてあげたりすることがあまりなかったため、少し恥ずかしかった。</p>	<p>・できたと思う。先輩たちが、色々意味とか教えてくれて色々勉強になりました。(OO)</p> <p>・できたと思います。しっかりとグループとしてのまとまりを持つことができていた。(OO)</p> <p>・できたと思う。先輩達は、見たらずに文にすることができて、すごいと思った。たくさん語句や熟語(みたいな)を知っていて驚きました。(OO)</p> <p>・全体的にできたと思います。アイデアも言えたり、説明もわかりやすかったです。(OO)</p> <p>・先輩がとてもやさしくて、私達が日本語で言った意見を英語に訳してくれたり、辞書で調べてくれたり、分からない単語を教えてくださいました。私も来年はこんな先輩になりたいです。先輩のアイデアは、なるほど〜!!と思うようなものばかりだったので、一生懸命聞きました。日本語が混ざっているけれども、一応意見も言えて、充実した良い時間になりました。英語はこれからも頑張って、先輩のようになりたいです!!(OO)</p>
<p>[Jさん]</p> <p>自分の考えにプラスして、パートナーの考えも付け加えていくと、納得のいく文章ができて、お互い協力して活動ができたと思います。また、1人で考えるよりも、2人の方が次々と表現ができて、そういう部分でも、英語の勉強になったと思います。文章を読むことよりも、自分が考えた表現で、文を作っているのがすごく楽しかったです。</p>	<p>2年生よりも1年分多く勉強しているのので、2年生にできるだけ教えてあげられる様にしたいです。「さすが3年生!!」と思われる様な態度・行動をしたいです!! 緊張せず、積極的に話しかけていきます!!</p>	<p>私たちは違う目線からのアイデアをたくさん出してきて、紹介の文を書くことができました。今日は、教える側の立場としての方がもちろん多くて、緊張はしませんでした。すごく新鮮な感じで、とても楽しめました。また異学年交流をしたいと思います。もっと少人数の方が、お互いに意見を出しあえたかな? と思います。</p>	<p>・先輩たちは分からない単語なども調べてくれて、よかったです! 自己紹介はあまり上手くできませんでした。突然そういうことをしなければならなくなっても焦らずにできるといいと思います。(OO)</p> <p>・自己紹介の時と急だったし、なかなか言えなかったです。このプリントをするときは先輩たちを中心に上手くやれたと思います。英語をいろいろ言っていたしすごいと思いました。こんな風に英語を話すのは難しいだろうなと思いました。(OO)</p> <p>・自己紹介や“How do you spell ~?”という言葉を通して上手くうけることができたと思います。また、先輩は談々と文をすぐに考えてすごいなと思いました。(OO)</p> <p>・先輩と共に理科室のことについてしっかり考えることができてよかったです。また、自分の意見もかきつけてくれたりしてうれしかったです。(OO)</p> <p>・はじめは、少したじたじでしたが、最後の方は話せるようになりました。先輩は僕たちと違って、いろいろな単語、文法を知っていてすごかったです。自分の意見も伝えられたし、聞くこともできました。いい英語になったと思います。(OO)</p>
<p>[Kさん]</p> <p>学校の色々な部屋を英語で言えるようになった。調べてみると意外と日本語をそのまま英語にすればよい単語が多かった。OO君と精一杯考えて、職員室の説明文をつくってみただけ、他のグループの人達は、僕達が思い浮かばなかった文をたくさん書いていてとても参考になったし、自分達の文にも加えた。発表はちゃんと相手に伝えられるように努力したいです。</p>	<p>2年生にもわかりやすいようにしていねいにはっきり話す。集中して取り組む。</p>	<p>自分がわかっている単語や文法を2年生に伝えるのは、とても苦労しました。でも、部屋の紹介の文を自分で作って2年生に教えるとよく納得してくれたので、よかったです。職員室の発表の文は、あまりよくわからなかったらしく、もう少し大きな声で話し、単語や意味などをくわしく教えてあげられたらよかったです。</p>	<p>・先輩たちは分からない単語なども調べてくれて、よかったです! 自己紹介はあまり上手くできませんでした。突然そういうことをしなければならなくなっても焦らずにできるといいと思います。(OO)</p> <p>・自己紹介の時と急だったし、なかなか言えなかったです。このプリントをするときは先輩たちを中心に上手くやれたと思います。英語をいろいろ言っていたしすごいと思いました。こんな風に英語を話すのは難しいだろうなと思いました。(OO)</p> <p>・自己紹介や“How do you spell ~?”という言葉を通して上手くうけることができたと思います。また、先輩は談々と文をすぐに考えてすごいなと思いました。(OO)</p> <p>・先輩と共に理科室のことについてしっかり考えることができてよかったです。また、自分の意見もかきつけてくれたりしてうれしかったです。(OO)</p> <p>・はじめは、少したじたじでしたが、最後の方は話せるようになりました。先輩は僕たちと違って、いろいろな単語、文法を知っていてすごかったです。自分の意見も伝えられたし、聞くこともできました。いい英語になったと思います。(OO)</p>
<p>[Lさん]</p> <p>今までなかったことで自分たちの表現したことが表現できたのがおどろきました。</p>	<p>しっかりとあいさつして、集中してとりくむ。</p>	<p>だいたいのは今まで使ってきた英語をつかって表現することができました。単語などでつまづく点もあつたけどどうもよかったと思います。大きな声で英語を喋るということは大切だと今日この時間でわかりました。</p>	<p>・先輩と共に理科室のことについてしっかり考えることができてよかったです。また、自分の意見もかきつけてくれたりしてうれしかったです。(OO)</p> <p>・はじめは、少したじたじでしたが、最後の方は話せるようになりました。先輩は僕たちと違って、いろいろな単語、文法を知っていてすごかったです。自分の意見も伝えられたし、聞くこともできました。いい英語になったと思います。(OO)</p>

同学年グループ活動後の評価	異学年交流前の心構え	異学年交流後の自己評価(3年)	異学年交流後の自己評価(2年)
<p>[Mさん]</p> <p>学校の部屋の名前は英語では何なのか調べてみると、知らない単語ばかりで、身のまわりにあるように感じません。</p>	<p>挨拶をしっかりする。</p>	<p>前の時間に2年生との交流授業になることをもっと深く考えてあげようかと思いましたが、思ったとおり言葉が出てこなくて大変でした。短い時間なので、いろいろな短文と短文をつなぐ言葉をとかを調べておけばよかったです。次にこのような機会のあるときは頑張りたいです。</p>	<p>・1番がなかなか聞けなくて、聞けなかった部分もあった。自分の意見を言えなかったのが、残念でした。でも、とても良い授業で良かったです。(OO)</p> <p>・1をうめるために先輩に質問しようとしたけど、なかなか聞けなかった。ちょっと話づらかったのでも、自分の意見を先輩に伝えることができなかったのが、残念。(OO)</p> <p>・もっと積極的に聞けばよかったです。ちょっと聞き取りにくかった。色々な表現が出てきて勉強になった。3年の英語が思ったより難しそうだった。(OO)</p> <p>・1番を全て聞くことができなかった。3年生と一緒にだと、いつもと雰囲気違った。でも、3年生の言っていることは、しっかりと聞くことができたし、書き取ることもできたので良かったです。英語で学校のことを説明するのは難しかったから、あまり自分で意見を言うことができませんでした。(OO)</p> <p>・なかなか聞き取れなくて、3年生の人に何度も聞き直したりして、とまどったところもあったけど、やさしい3年生だったので、とても分かりやすくてよかったです。慣れる3年生でした。(OO)</p>
<p>[Nさん]</p> <p>2人で考えたので、1人のときより楽しかったし、知識を合わせて協力することでいい文を作れたと思いました。</p>	<p>挨拶をしっかりとする。騒がない。</p>	<p>もう少し発言して欲しいと思いました(2年)。時間が短くて、緊張したので、活動しづらかったけど、いろいろ交流できたので楽しかったです。</p>	<p>・1番を全て聞くことができなかった。3年生と一緒にだと、いつもと雰囲気違った。でも、3年生の言っていることは、しっかりと聞くことができたし、書き取ることもできたので良かったです。英語で学校のことを説明するのは難しかったから、あまり自分で意見を言うことができませんでした。(OO)</p> <p>・なかなか聞き取れなくて、3年生の人に何度も聞き直したりして、とまどったところもあったけど、やさしい3年生だったので、とても分かりやすくてよかったです。慣れる3年生でした。(OO)</p>
<p>[Oさん]</p> <p>あまり全てを見ることはできませんでしたが、少し見ただけでも「あ〜!!」なるほど、こんなアイデアもあるな!という文がたくさんあった。みんなで知恵を出し合ったら、とても良いものになると思う。</p>	<p>先輩に尊敬してもらえるようふるまい!!</p>	<p>2年生も積極的に色々言ってくれたので良かったです。話し合いのときは、あまりうまくできなかったように思います。(2年生は2年生、3年生は3年生で進んでいた。)もう少し積極的に話し合おうとすればよかったですなと思いました。</p>	<p>・あまりみんな意見の出し合いはできなかったような気がする。でも、先輩は親切でいいに教えてくれたので良かったです! この経験を生かして、私も下級生に優しく接することができればいいなと思いました。(OO)</p> <p>・先輩や友人の説明とか、しっかりと耳を傾けることができたと思う。でも、自分の意見とかあまり言わなかったから、次からはちゃんと言おうと思う。(OO)</p>
<p>[Pさん]</p> <p>パートナーといっしょに案内文を書くことにより、自分では気づかないことに気づいたりできて、よかったです。一人で文を考えたりすると、自分のアイデアしかはらないので、固い文になってしまうのだけど、パートナーと組んでやったり、他の人が作った文をみたりして、アイデアをたくさん増やすことができ自分の知識をさらにパワーアップさせることができました。これからの授業でも、自分一人で考えることも大事だけれどせつかく集団で生活しているのだから集団でしか学べないことを大切にしたいと思いました。</p>	<p>私は2年生よりも一つ年上だけれど、まだまだ、英語も上手ではありません。もしかしたら、2年生が知っているのに私が知らないこともあるかもしれません。だから、先輩だから教えてあげるといっても2年生といっしょに学ぶというイメージでこの7月6日の授業を受けられたらいいなと思います。でも、恥ずかしい思いをしないようにがんばりたいです。</p>	<p>2年生といっしょにやる前は授業が楽しみななあと思っていました。しかし、実際にいっしょに勉強して、どうすればいいかわからなくなり、とても困りました。1つ年上だから、自分が一番がんばらなければならないのに、緊張してしまい、いっしょに考えるときも2年生を困らせてしまいました。この交流でもとても勉強になりました。この機会をこれから生かしたいです。</p>	<p>・先輩や友人の説明とか、しっかりと耳を傾けることができたと思う。でも、自分の意見とかあまり言わなかったから、次からはちゃんと言おうと思う。(OO)</p> <p>・先輩、友人の意見を聞いたり、伝えることはできた。1レベル上の英語が体験できたと思います。(OO)</p> <p>・先輩、友人の話しは聞けたけど、2・3年で照れがあり、少しづつがらなかった。でも、上の人の話しを聞くことで、ためになることもあった。(OO)</p>

Let's show around our school!

Class _____ No. _____ Name _____

1. Exchange greetings.

student teacher's name: よりひさ 糸川

2. Introduce yourself to the student teacher.

Memo : ● Aya Sasaki
 ● I like English the best ... I don't like math the best ...
 ● I was belong to the ... I like soccer and tennis ♡
 言葉で説明する

3. Show the following rooms to the student teacher.

Japanese	English
生徒玄関	A Description of the Room ● take off our shoes. And put on ... indoor shoes. ● we can get on ... favorite...
柏樹ホール	
生徒会室	● There is a president ... ● they work here ... we can't enter this room.
購買	
武道場	● We can play Ping-Pong and Judo ... ● Sometimes we have meeting.
職員室	
校長室	● There is a principal. ● There are many trophy and medal.
保健室	
体育館	● we can play a lot of sports. ● we have sports much in Summer and winter.
図書室	
コンピュータ室	● There're 42 computer ... this room is comfortable. ● Internet ... we enjoy movies here.
美術室	

4. Exchange greetings.

5. How do you feel about today's class? Did you show around the school well? What do you think of a series of classes? Write it down in Japanese.

思いがけない質問をされると、うまく言葉がでてこなくて、とてもあせりました。
 頭の中は、言葉(日本語)がでてこなくて、どう英語で表現すれば良いかわからず、
 あせりました。名詞、動詞、会話がスラスラと運ばなくて、もっと継続的な会話言語が
 できたらよかったです。因り、感じてほしいです。因り、話し、男子のペアが
 ちょこちこ敬えてくれたので、怖れた生活がががががが。英語不足でとても
 感じたので、もっともっと勉強したいです!!

学校案内活動 自己評価 一覧表

同学年グループ活動後の評価

[Aさん]	今日の授業は英語だけでなく、細かい表現をするので、細かく勉強しなくてはいけないと思いました。でも、ジェスチャーや手を使いながら、音で伝えられるので、音で覚えておくのが、何となく楽な感じがしました。英語の授業は、何となく楽しくなりました。
[Bさん]	質問にも答えてくれるので、相手も丁寧に聞いてくれるので、安心して質問できます。今回、このように質問も答えてくれるので、相手も丁寧に聞いてくれるので、安心して質問できます。
[Cさん]	最初から丁寧に聞いてくれて、実際に伝えるのは難しかったです。前置きが入って説明をするので、少し入り組んだ感があります。今回、相手も丁寧に聞いてくれて、実際に伝えるのは難しかったです。
[Dさん]	自分自身が上手に英語を話せるように、少し日本語も使って聞かせました。簡単な質問も難しく考えよかったです。自分自身が上手に英語を話せるように、少し日本語も使って聞かせました。
[Eさん]	英語が上手にならなかつたので、とても大変でした。紹介する文が短すぎて、すぐに終わってしまったので、先生も話をする機会が少なかったです。紹介する文が短すぎて、すぐに終わってしまったので、先生も話をする機会が少なかったです。
[Fさん]	今日、先生から学校紹介を受けてみて、最初に文をいくつか覚えてきて、いざ喋るときは、用意しておいた文はすぐ喋り終えてしまいました。でも、メンバーのみんながアポイントをいれて、英語を話せることに挑戦しました。
[Gさん]	難しい。つい日本語を思い出してしまっただけで、ちゃんと説明できなかった。学校の様子も、意外に知らない。友達のところが多かった。色々覚えて来た。2年生との活動も、2年生はちゃんとアポイントを出して、自分たちのペアだけで進んでいけると思った。スラスラとしゃべれなくて、緊張してしまっただけで、どうにか伝えようとしていた。本当のネイティブの人も聞かされたと思う。
[Hさん]	2年生との交流を含め、英作文を作る楽しさを覚えました。案内している文は英語で書かれたけど、その他、歩いているときなどに、日本語を使ってしまいました。全く日本語を使わない、というのは、とても難しかったです。
[Iさん]	また、紹介する文を作るのも、その文を元にした文章を作るのも、前より簡単にできるような感じがしました。
[Jさん]	あお自分の思ったとおり英語で話せる感じがした。でも、相手が一度日本人だったために、自分の間違いも指摘して、いい感じだった。自分の思ったとおり英語で話せる感じがした。でも、相手が一度日本人だったために、自分の間違いも指摘して、いい感じだった。
[Kさん]	思いやらない質問をされるので、うまく言葉が出てこなくて、とてもあせりました。頭の中は、言葉(日本語)がでてこなくて、どう英語で表現すればいいかわからず、あせりました。名詞、動詞、会話がスラスラと運ばなくて、もっと継続的な会話言語ができたらよかったです。因り、感じてほしいです。因り、話し、男子のペアがちょこちこ敬えてくれたので、怖れた生活ががががが。
[Lさん]	最初は、先生と英語をしてみて、聞いてくれたのは、質問をしてきて、その意味を理解できなかったけれど、答え方がわからず、どう表現していいのかわからず、なかなか言葉がでてこなくて、緊張してしまっただけで、どうにか伝えようとしていた。本当のネイティブの人も聞かされたと思う。
[Mさん]	自分の持っている力で、自分から積極的に英語を話せるように頑張りたいです。
[Nさん]	語力の弱いつらなりましたが、これからは英語を学ぶ上で、積極的に英語を話せるように頑張りたいです。
[Oさん]	下準備が足りなくて、ほとんど質問にも答えられませんでした。例えば、技術科が英語で話せるように頑張りたいです。自分自身が上手に英語を話せるように、少し日本語も使って聞かせました。
[Pさん]	英語が上手にならなかつたので、とても大変でした。紹介する文が短すぎて、すぐに終わってしまったので、先生も話をする機会が少なかったです。紹介する文が短すぎて、すぐに終わってしまったので、先生も話をする機会が少なかったです。
[Qさん]	最初の方は、自分自身も話せるようになってきた。ジェスチャーも加えながら、だいぶ伝わったと思う。また、質問にも答えてくれるので、相手も丁寧に聞いてくれるので、安心して質問できます。
[Rさん]	英語が上手にならなかつたので、とても大変でした。紹介する文が短すぎて、すぐに終わってしまったので、先生も話をする機会が少なかったです。紹介する文が短すぎて、すぐに終わってしまったので、先生も話をする機会が少なかったです。

2006 (平成18) 年7月10日 (月)
指導者 小川 正南/三田 耕平

- 1. 単元 (題材) 名 英語で自己紹介をしよう!
2. 見外から自分や友達が外国に行きたときや自分が外国に行きたときを英語で表現する。
3. 関心の観点及び指導
①関心: 異文化理解
②関心: 異文化理解
③関心: 異文化理解

【単元 (教材) 観】
1. 単元 (教材) 観
2. 単元 (教材) 観
3. 単元 (教材) 観

【生徒観】
1. 単元 (教材) 観
2. 単元 (教材) 観
3. 単元 (教材) 観

【指導観】
1. 単元 (教材) 観
2. 単元 (教材) 観
3. 単元 (教材) 観

5. 指導計画及び評価計画 (総時数6時間)

Table with columns for lesson number, content, and evaluation items.

6. 本時の学習 (第二次中の1時)

- (1) 題材名 英語で自己紹介をしよう!
(2) ねらい
(3) 「共に学ぶ」
(4) 本時の展開

Main lesson plan table with columns for time, content, and evaluation.

異学年交流学習活動 自己評価 一覧表 (1時間目: 1年3組)

③今日の授業を振り返って、1・2年生とうまく活動できましたか。具体的には、1・2年生のアドバイスをしっかりと聞くことができましたか。また、自分で1・2年生にアドバイスをすることができましたか。できなかった人は、なぜできなかったかについても振り返って書きましょう。
④今日の授業を振り返って、自分の自己紹介スピーチで改善できたところはどんなところですか。また、改善できなかったところは、どんなところですか。改善できなかった点については、なぜ改善できなかったかについても振り返って書きましょう。

同学年グループ活動後の評価	異学年交流前の心構え	異学年交流後の自己評価(2年)	③異学年交流後の自己評価(1年)	④異学年交流後の自己評価(1年)
①自分がした自己紹介をビデオで見ることができて、自分のよかった点や悪かった点を見つけることができました。みんなの意見も聞けたので、これから参考にしたいと思います。	②今回学んだことを生かして発表したいです。1年生のためにアドバイスができた点や悪かった点やいい点などあります。	(1時間目) ③しっかりと聞いて、よかったところ、悪かったところを1年生に教えてあげることができた。 ④声が大きくなったのでよかった。もっとジェスチャーやアイコンタクトをするべきだった。途中、言うことをわすれてしまったりしたので、アイコンタクトをする余裕がなかった。 (2時間目: 1年4組) ③1年生のみんなに良かった点、悪かった点を教えてあげることができた。1年生からもアドバイスを受けて、自分のスピーチの仕方も上達したと思います。 ④声の大きさを改善できた。アイコンタクトもちゃんとできたので、よかった。次にするときは、ジェスチャーもできるといいと思います。	・すごく良いアドバイスを受けたので、きちんと気をつけなければいけないなと思いました。 ・アドバイスをしっかりと聞くことができた。先輩には遠慮してアドバイスをできなかった。1年生にはまあまあできたと思う。 ・2年生ならではの質問や意見が出てきたので、英語の文法のことでも勉強になることが多かったのだととてもいい活動になったと思います。 ・活動的にうまくできてきたと思うし、アドバイスもしっかりと聞くことができ、気をつけたいことがわかった。でも、アドバイスをすることは少しできず、ちょっと遠慮していたからだと思う。 ・先輩へのアドバイスは時間がなくてできなかったけど、1年生へのアドバイスは良かった点も含めてすることができました。班の人からのアドバイスは、2回目の発表のときに生かしたのでよかったです。	・声が大きくなり、はっきり言うことに気をつけました。ジェスチャーはつけていないので、がんばってつけようと思います。 ・声が小さいといわれたから、そこを改善できるように努力したい。時間がなかったから、改善の練習ができませんでした。 ・英語で練習を直すことは自分の行動で支援に出してしまうのでなかなか直せない。 ・声の大きさや、話すときのスピードが改善できた。はっきり話すことができず、だめだった。 ・今日は少し遅い席の人に「もう少し大きな声のほうが良かった」と言われたので、2回目は直すことができました。本番でも、みんなに伝わる声の大きさにしたいです。
①前の発表の時よりも大きな声で話したりと発表できた。前の原稿よりも今日書いた原稿の方が長くなった。	②はっきり発表する。たくさん話す。しっかりと聞く。	(1時間目) ③できた。 ④はっきりと言うことを改善できた。 (2時間目: 1年4組) ③できた。 ④声の大きさを改善できなかった。口を大きく開けたら、痛いらから。	・何か、アドバイスを言ったりする時間というのがあまり取れなかった。それは、1年生がちょっと緊張してしまっただけで、言いたいことが言えなかったからだと思う。 ・今日2年生と授業をしてみましたが2年生だと思っただけで、それに自分でも気づけなかった。直したほうがいい点を言ってくれたので、ほかの学年と授業をして良かったと思うし、うまく活動できた。 ・アドバイスとうまく活動することができたと思う。アドバイスを聞くこともできたと思う。 ・私的には良く活動できたと思います。この時間のおかげで2年生や友人にいろんなアドバイスがもらえたので、本番は、そのアドバイスに注意しながら発表します。 ・自分の練習不足で、言うことを忘れた。内容がとても薄かった。2年生ともなじめて、良いムードだったと思う。	・完璧にはできなかった。声の大きさやはっきりという点では安定していたが、まだ覚えきれていなかったアイコンタクトがしっかりできていなかったから、そこを改善したい。 ・アイコンタクトをしていなかったのをできるだけ補正することもできた。 ・大きな声で言って、何とかはっきり言えた。改善できなかったところはちょっと遅く言ってしまったこと。 ・今日のスピーチで、自分では普通だと思っていたけど、ほかの人から見てみると、少し聞こえにくいということがわかりました。 ・練習をもっとしたほうが良かった。2年生はやはりすごかった。自分もこのくらいできるように努力すればよかったと思う。
①みんなの考えなどを聞いて自分の発表をより良くすることができた。また、小グループでの発表で、本番の形で発表することにより、新たな改善点や緊張しない方法を考えることができた。	②1年生と触れあうのは部活動などの限られた空間と時間だけなので、今回の活動で1年生と2年生が触れあうきっかけを作りたいと思います。差違をわかって正しい自己紹介を心がけて楽しい時間になりたいです。また、はきはき言って聞きやすい英語を言いたいです。	(1時間目) ③思ったよりもみんな自己紹介が上手だったので、アドバイスは1人につき1つか2つぐらいで、逆に私の方が1年生の自己紹介からいろいろを学びました。 ④スピードを速くせず、聞き取りやすい速さで発表できるようにした。アイコンタクトもだいたいできるようになった。でも、やっぱり1年生の前だと緊張してしまっただけ。 (2時間目: 1年4組) ③前よりもアドバイスができたと思う。みんなははきはきして、しゃべりやすい人ばかりで、お互いにアドバイスし合っていて、1年生にもすいずいと思えました。すごく勉強になりました。 ④頑張ってゆっくり言ってアイコンタクトをしました。でも、1年生にはまだ遅く感じられたみたいでした。Tシャツを見せたことをほめられて、すごくうれしかったです。	・何か、アドバイスを言ったりする時間というのがあまり取れなかった。それは、1年生がちょっと緊張してしまっただけで、言いたいことが言えなかったからだと思う。 ・今日2年生と授業をしてみましたが2年生だと思っただけで、それに自分でも気づけなかった。直したほうがいい点を言ってくれたので、ほかの学年と授業をして良かったと思うし、うまく活動できた。 ・アドバイスとうまく活動することができたと思う。アドバイスを聞くこともできたと思う。 ・私的には良く活動できたと思います。この時間のおかげで2年生や友人にいろんなアドバイスがもらえたので、本番は、そのアドバイスに注意しながら発表します。 ・自分の練習不足で、言うことを忘れた。内容がとても薄かった。2年生ともなじめて、良いムードだったと思う。	・完璧にはできなかった。声の大きさやはっきりという点では安定していたが、まだ覚えきれていなかったアイコンタクトがしっかりできていなかったから、そこを改善したい。 ・アイコンタクトをしていなかったのをできるだけ補正することもできた。 ・大きな声で言って、何とかはっきり言えた。改善できなかったところはちょっと遅く言ってしまったこと。 ・今日のスピーチで、自分では普通だと思っていたけど、ほかの人から見てみると、少し聞こえにくいということがわかりました。 ・練習をもっとしたほうが良かった。2年生はやはりすごかった。自分もこのくらいできるように努力すればよかったと思う。

同学年グループ活動後の評価	異学年交流前の心構え	異学年交流後の自己評価(2年)	③異学年交流後の自己評価(1年)	④異学年交流後の自己評価(1年)
①どうすれば人に伝わりやすいかわかった。どのくらいの声の大きさがよいかわかった。どんなジェスチャーをつければいいかわかった。	②1年生の意見をしっかりと聞く。そして聞いてもらう。ゆっくりでもハキハキ話すようにする。しっかりと目を見て喋る!!	(1時間目) (全部覚える) ③ちょっとはできたかな...。でも、ためになるようなアドバイスじゃないかもしれません。1年生が、すごい上手で驚きました。私の方が下手だったかも。 ④声の大きさ! 前より少しだけ大きく話そうことができました。でも、まだ全ては暗記してないので、そこをできるようにしたいです。 (2時間目: 1年4組) ③さつきよりも、アドバイスをもらえてよかった!! 数字のところは気を付けて、今度機会があれば発表したいです。 ④アイコンタクトをみんなにしたこと。で、数字など難しい部分を変えたいです。	・2年生のアドバイスをしっかりと聞き、次回も、生かして生きたいと思えます。良かった点、悪かったこと、しっかりと直していきたいです。 ・なかなか打ち解けた感じで活動することはできたけれど、気がついたことを書くだけで時間が終わってしまう、実際に本人に言うような場面を作るには時間が足りなかった。 ・アドバイスはなくても(別に悪いところはないから)良いから言いませんでした。今日は楽しく活動できました。 ・うまく活動できたと思う。自己紹介の内容が面白くて笑えたり、そこから気軽に話せるようになって...。スピーチのほうもうまくアドバイスをし合えたのでいい1時間だったと思う。 ・発表しているときにメモを取ってしまっとうまく聞けなかった人のときもあった。	・しっかりと、はっきりしゃべることが出来たことは良かったと思います。けれど、覚えることができなかったのを、覚えたいです。 ・少し私は掃がりのなのでびびりました。いつもこうなので困ります。 ・「ゆっくり話そう」「しっかり見て話そう」「紙を見ずに言う」頭の中では分かっていたけど、実行するのは難しい!! 次は気をつけたい。 ・大きな声で言えるようになった。原稿を見ませんでした。
①表の気を付けたらいいところが分かった。	②はっきりとした発表をする。	(1時間目) ③あまり時間がなくてできなかった。 ④緊張しすぎて、余裕がなかった。 (2時間目: 1年4組) ③多分、けっこううまくいったと思います。 ④やっぱり1年生の前だと、緊張するから。	・先輩とうまく活動できたし、どの部分をどうしたらいいか、などの事が良くわかった。 ・いろんなアドバイスあまりできなかったのもっとできたい。ほかの人はうまく話せていた。 ・先輩にはやっぱり遠慮して言うことができなかったけど、友達には具体的なアドバイスができたので良かったと思います。 ・今日の授業では、先輩のアドバイスをしっかりと聞けたけど、先輩や友人には余りアドバイスできなかった。理由は、ほかの人たちが言ったのと大体同じだったから。これからは同じでもアドバイスは言っていこうと思った。 ・あんまりできなかった。緊張はしてなかったけど、言いにくい環境だったから。(?)	・あらゆることを英語っぽく聞こえるようにする。人が聞きやすいように言う。 ・はっきりとしゃべる、アイコンタクト、自信を持って、この3つを大事に。英語の読み方も注意!! ・改善できた点 → 大きな声で話さずに話すこと。できなかった点 → 思わず「えーっ」と日本語で話してしまったこと。 ・改善できたところは、日本語を混ぜないようになる。 ・少しアイコンタクトが取れるようになった。でも声あまり大きくなってできなかった。
①どうやって発表すればいいかわかった。大きな声で話したりと発表することができた。ジェスチャーをしていない。少し速く言っている。	②相手の言葉をよく聞いて、参考にしたりする。はっきりと話す。自己紹介をしっかりとする。	(1時間目) ③1年生がアドバイスしてくれなかった。けっこううまく活動できた。アドバイスをたくさんできた。 ④自信をもって発表できたが、少し速かった。 (2時間目: 1年4組) ③声の大きさと聞かれたので、大きくしようと思う。アドバイスは、たくさんできた。うまく活動できたと思うが、話を聞いてくれなかった人がいたので、残念。 ④大きい声で言えた。	・先輩とうまく活動できたし、どの部分をどうしたらいいか、などの事が良くわかった。 ・いろんなアドバイスあまりできなかったのもっとできたい。ほかの人はうまく話せていた。 ・先輩にはやっぱり遠慮して言うことができなかったけど、友達には具体的なアドバイスができたので良かったと思います。 ・今日の授業では、先輩のアドバイスをしっかりと聞けたけど、先輩や友人には余りアドバイスできなかった。理由は、ほかの人たちが言ったのと大体同じだったから。これからは同じでもアドバイスは言っていこうと思った。 ・あんまりできなかった。緊張はしてなかったけど、言いにくい環境だったから。(?)	・あらゆることを英語っぽく聞こえるようにする。人が聞きやすいように言う。 ・はっきりとしゃべる、アイコンタクト、自信を持って、この3つを大事に。英語の読み方も注意!! ・改善できた点 → 大きな声で話さずに話すこと。できなかった点 → 思わず「えーっ」と日本語で話してしまったこと。 ・改善できたところは、日本語を混ぜないようになる。 ・少しアイコンタクトが取れるようになった。でも声あまり大きくなってできなかった。
①話す力がついたと思う。小さい子にどうやって話せばいいかわかった。ビデオを見て、発表の時、どうすればいいかわかった。	②はっきりと落ち着いて話す。ジェスチャーなどをしっかりとする。大きな声で言う。相手の顔を見る。わかりやすく説明する。しっかりと話している人の顔を見て聞く。	(1時間目) ③聞くことができたし、アドバイスすることもできたと思う。1年生からのアドバイスがあまりなかったから、言ってももらえる状態(雰囲気)をつくればよかった。 ④ジェスチャー(本を見せる)を時間をとってできたと思う。もっと、ゆっくりはきはきと言えばよかった。 (2時間目: 1年4組) ③ちゃんとアドバイスすることができたし、1年生からのアドバイスも、もらえたので良かったです。 ④少しはゆっくり話せていたと思っていたけど、アドバイスを聞くと、まだ遅かったから、もっとゆっくりと行っていきかったです。	・先輩とうまく活動できたし、どの部分をどうしたらいいか、などの事が良くわかった。 ・いろんなアドバイスあまりできなかったのもっとできたい。ほかの人はうまく話せていた。 ・先輩にはやっぱり遠慮して言うことができなかったけど、友達には具体的なアドバイスができたので良かったと思います。 ・今日の授業では、先輩のアドバイスをしっかりと聞けたけど、先輩や友人には余りアドバイスできなかった。理由は、ほかの人たちが言ったのと大体同じだったから。これからは同じでもアドバイスは言っていこうと思った。 ・あんまりできなかった。緊張はしてなかったけど、言いにくい環境だったから。(?)	・あらゆることを英語っぽく聞こえるようにする。人が聞きやすいように言う。 ・はっきりとしゃべる、アイコンタクト、自信を持って、この3つを大事に。英語の読み方も注意!! ・改善できた点 → 大きな声で話さずに話すこと。できなかった点 → 思わず「えーっ」と日本語で話してしまったこと。 ・改善できたところは、日本語を混ぜないようになる。 ・少しアイコンタクトが取れるようになった。でも声あまり大きくなってできなかった。

③今日の授業を振り返って、1・2年生とうまく活動できましたか。具体的には、1・2年生のアドバイスをしっかりと聞くことができましたか。また、自分で1・2年生にアドバイスをすることができましたか、できなかった人は、なぜできなかったかについても振り返って書きましょう。

④今日の授業を振り返って、自分の自己紹介スピーチで改善できたところはどこですか。また、改善できなかったところは、どこですか。改善できなかった点については、なぜ改善できなかったかについても振り返って書きましょう。

同学年グループ 活動後の評価	異学年交流前の 心構え	異学年交流後の自己評価(2年)	③異学年交流後の自己評価(1年)	④異学年交流後の自己評価(1年)
①自分の自己紹介の反省点を見つけることができた。また、友達へのアドバイスを今後、どのように活かすか分かった。自分の意見と違った意見を聞くことができた。もっと本音で話せたと思う。	②1年生とは初めて会う人というけど、緊張せずに自分らしい紹介をしたい。また、今回の自己紹介の経験、反省を生かしてよりよい発表をしたいと思う。	(1時間目) ③最初、後輩との授業で大丈夫かなと思いましたが、私の発表に対するアドバイスをしっかりと聞いてくれて、次のスピーチの役に立ちました。また、私がしたアドバイスをちゃんと取り入れてくれて、「ちゃんと聞いているんだなあ」と思い、うれしかったです。 ④自信をもって、恥ずかしがらないで発表することを改善できたと思います。 (2時間目：1年4組) ⑤もう少し、1年生の発表をしっかりと聞きたかったです。 ⑥3限の時にアドバイスをもらったことをもとに、アイコンタクトとジェスチャー、速さをゆっくりするという3点を意識してスピーチしたら、速さがちょうどよくなったのでよかったです。	③異学年交流後の自己評価(1年) ・たくさんアドバイスをもらえてよかったです。ほかの人の自己紹介を良く聞き取ることができないときもあった。 ・聞けた。 ・聞くことができました。それに、アドバイスも言ってくれました。今日の授業はぼつちりかも... ・できたと思います。1年生の人は声の小さい人が多くて、2年生は話すのが速いので、ついていけないところもありましたが、2年生はやっぱり上手でした。 ・しっかりと聞けた。アドバイスなどもできたし良かったです。	④異学年交流後の自己評価(1年) ・「大きな声で」というアドバイスがあったので、次は大きな声ではきはきと話せるようになると思う。 ・いちおう改善した。 ・ちょっと、笑っちゃった。下手ところは告げても直せるから次から直していきたいです。出身のところがすぐ直しました。 ・声を、大きく言うべきところ、はっきり言えたり、I have books, manyをよりわかりやすいというところを改善できると思う。 ・自信がついた。ぼそぼそ言うのもなくなったと思う。
①お互いに紹介し合うことで改良点分かった。ほめてくれて自信を持てた。4月の発表を振り返れたことがよかった。	②恥ずかしがらずにはきはきと話せるようにしたい。	(1時間目) ③自分の自己紹介はダメだったけど、1年生はみんな元気にやってくれたので良かったと思います。アドバイスもあって改めて学んだこともあったので良かったです。 ④もう少しゆっくり話せばよかったです。 (2時間目：1年4組) ⑤自分の発表は全然ダメだったけど、1年生のみんながはきはきとやってくれたので良かったです。新たに分かったこと、経験になったと思います。 ⑥ジェスチャーに気がついたら、けど、1年生によっては難しい単語があるとされたので気を付ける。	・うまいかなかったです。英語には自信がなくて、いつも話まわってました。 ・なかなか思い通りに話せず、内容が抜けた。緊張して、声の小さくなってしまった。覚えきれていなかったと思う。話すスピードも速かった。 ・うまくすることができた。先輩たちのアドバイスをとてもためになりよかったです。自分でアドバイスをすることがうまくなってきて、先輩に褒められてうれしかったです。先輩の前で緊張してしまっただけ、楽しく自己紹介の練習ができたと思います。今日、アドバイスをされた話スピードを気をつけて次回がんばりたいと思います。 ・少しできたけどできなかったのが多くて、やっぱり少し緊張気味だったからあまりうまくできなかった。	・英語にもっと自信を持ってはきはきと言えよかったです。たくさん話してもっと英語に自信を持てばよかったです。 ・声を大きくすることやスピードは改善できたが、まだしっかりと覚えていない。落ち着いて言いたい。声の大きさと速さのことについて注意されたので次からしっか。 ・アドバイスされた、発音は良かったけれど話スピードが速くて聞きづらかった。ゆっくり落ち着いてがんばろうと思えます。 ・はきはきと嫌いな言わない事。大きな声。
①「アナーキスト」をどういふ言葉で説明してよいかを考えた。How do you say ~ in Japanese? という言い方を決まりました。少し恥ずかしくてもいいから、英語を通して、私たちのことを少しでも知ってもらいたい。自己紹介の意を伝えること(前のプリント)を守って話す。今回の授業では、気分よく聞き取りにくかったところを少しづつ改善できた。練習中、しゃべってしまっ	②楽しそうに話して、私たちのことを少しでも知ってもらいたい。自己紹介の意を伝えること(前のプリント)を守って話す。今回の授業では、気分よく聞き取りにくかったところを少しづつ改善できた。練習中、しゃべってしまっ	(1時間目) ③1人1人、内容が違ったり、緊張の度合いがずれてきて、アドバイスすることがたくさんあった。自分自身も、1人ずつアドバイスや良くなったところを言ってもらい、自信がついた。まずは、自分がしっかりと聞けないと、敬えてあげることができないと痛感した。 ④はきはきと話すことができた。改善できなかったところは、全てを覚えておらず、カットした文があったこと。練習不足は、緊張を高め、下手なスピーチになることが多かった。 (2時間目：1年4組) ⑤1年生はなかなか話してくれないと思っていたけど、全員が元気に明るい子で意見を言ってくれて、全員が言ってくれて、すごく勉強になる部分もあったし、嬉しかった。 ⑥前の授業で克服できなかった暗記は結構できた。しかし、速さは聞き取れないところがあると言われた。緊張は、さほどしなくなった。つまり、何度も人前で発表やスピーチを続けていけば、緊張がなくなり、いいスピーチになることがわかった。	・うまいかなかったです。英語には自信がなくて、いつも話まわってました。 ・なかなか思い通りに話せず、内容が抜けた。緊張して、声の小さくなってしまった。覚えきれていなかったと思う。話すスピードも速かった。 ・うまくすることができた。先輩たちのアドバイスをとてもためになりよかったです。自分でアドバイスをすることがうまくなってきて、先輩に褒められてうれしかったです。先輩の前で緊張してしまっただけ、楽しく自己紹介の練習ができたと思います。今日、アドバイスをされた話スピードを気をつけて次回がんばりたいと思います。 ・少しできたけどできなかったのが多くて、やっぱり少し緊張気味だったからあまりうまくできなかった。	・英語にもっと自信を持ってはきはきと言えよかったです。たくさん話してもっと英語に自信を持てばよかったです。 ・声を大きくすることやスピードは改善できたが、まだしっかりと覚えていない。落ち着いて言いたい。声の大きさと速さのことについて注意されたので次からしっか。 ・アドバイスされた、発音は良かったけれど話スピードが速くて聞きづらかった。ゆっくり落ち着いてがんばろうと思えます。 ・はきはきと嫌いな言わない事。大きな声。
①どんな発音で発表すればいいかを考えた。他の人の発表を見て具体的にどこがよいかを指摘できた。練習でもジェスチャーをしっかりと使った。練習中、しゃべってしまっ	②1年生のことを考えて、なるべく分からない単語などがないようにする。質問されたら質問し返すようにする。	(1時間目) ③あんまり、コミュニケーションがとれなかった。しーんとしてしまった。アドバイスはしてあげた。 ④ジェスチャーを使って発表したので、前よりは分かりやすくなったと思う。なかなか恥ずかしくて、「えっと」をWell...とかにして言うことはできなかった。 (2時間目：1年4組) ⑤いまいち、明るくならなかった。もっと楽しくできたらいいなと思いました。 ⑥I have five people in my...のところで、具体的に家族を言ってみようと思いついた。言わなくていい。	・やばい最初だったから緊張してできなかったと思う。 ・代表者にジェスチャーをどんなのをするかをいろいろ案を出してアドバイスは良くできたと思います。先輩とはそこまで話さなかったし、もう少し聞いたりすれば良かったかな、と思います。 ・自己紹介の練習をしていなかったのでもちやうとした。でも、次の大きな目標が見えてきてよかったです。 ・先輩や友人のアドバイスを聞いて、完璧だと思っていた自己紹介文も内容がすぐ終わっている、ばらばらなどの意見が出て気がついたのでよかったです。	・もっと声を出す、アイコンタクトをする、言うことをしっかりと覚える。 ・ジェスチャーをしっかりとしっか。 ・文章をまったく覚えていなかったのでもちやうとした。でも、自分自身で自信を持っていくようにしたい。 ・アイコンタクトが最初とれてなくてそれは言うことに一生懸命になって下を向いていたから、気をつけたいです。 ・人の前(特に先輩の前)で言うことは、少し自信がなかったのでもちやうとした。よくあせってしまっ

同学年グループ 活動後の評価	異学年交流前の 心構え	異学年交流後の自己評価(2年)	③異学年交流後の自己評価(1年)	④異学年交流後の自己評価(1年)
①自分が直さなければいけないことがわかってよかった。発音やジェスチャーなどに気を付けなければならぬことがわかった。	②1年生に伝わりやすい言い方で自己紹介をすること。1年生の話をちゃんと聞く。	(1時間目) ③自己紹介はいつも通りに出来たが、1年生への質問などは、できなかった。積極的に話しかけられなかった。 ④アイコンタクトが出来たと思う。でも、ジェスチャーとかは、あまり出来なかった。 (2時間目：1年4組) ⑤前よりも上手にできた。1年生にアドバイスできた。 ⑥ジェスチャーが改善できない。次からはジェスチャーに気を付ける。あと強弱も気を付ける。	③異学年交流後の自己評価(1年) ・やばい最初だったから緊張してできなかったと思う。 ・代表者にジェスチャーをどんなのをするかをいろいろ案を出してアドバイスは良くできたと思います。先輩とはそこまで話さなかったし、もう少し聞いたりすれば良かったかな、と思います。 ・自己紹介の練習をしていなかったのでもちやうとした。でも、次の大きな目標が見えてきてよかったです。 ・先輩や友人のアドバイスを聞いて、完璧だと思っていた自己紹介文も内容がすぐ終わっている、ばらばらなどの意見が出て気がついたのでよかったです。	④異学年交流後の自己評価(1年) ・もっと声を出す、アイコンタクトをする、言うことをしっかりと覚える。 ・ジェスチャーをしっかりとしっか。 ・文章をまったく覚えていなかったのでもちやうとした。でも、自分自身で自信を持っていくようにしたい。 ・アイコンタクトが最初とれてなくてそれは言うことに一生懸命になって下を向いていたから、気をつけたいです。 ・人の前(特に先輩の前)で言うことは、少し自信がなかったのでもちやうとした。よくあせってしまっ
①前回の自己紹介よりいいものができた。どの表現がより分かり安か、言いやすいかなどを深く考えることができた。恥ずかしがってしまったので、あまり上手に話せなかった。前回と内容を変えたので、まだ覚えていない。	②1年生と和やかな雰囲気での授業ができるように気を配る。注意するときは、優しく相手に傷つけないようにする。1年生の手本になるように態度に気を付ける。	(1時間目) (声の大きさ、自信をもって話す) ③1年生とうまく話せず、暗い雰囲気になってしまった。だから、もっと積極的に話さなければならぬと思った。アドバイスはできたと思う。 ④写真を見ることができたので、イメージがつかみやすかったと思う。でも、声の小さかったのを、大きくするように気を付けたい。 (2時間目：1年4組) ⑤前の時間よりいい雰囲気で活動を進められた。1年生の自己紹介がとても分かりやすくて感心しました。アドバイスもちゃんとすることができたので、感謝しています。	・できました。だけど、2年生の先輩は発音や声の大きさ、アイコンタクトなどいろいろ上手で、あまりアドバイスすべきところはありませんでした。先輩には「えっと」を使わないことを注意されました。次回から気を付けたいです。 ・アドバイスしてもらって、いろいろとわかりました。例えば「えっと」とかを英語に直して言うとか工夫したいところを聞いてよかったです。相手にアドバイスをすることはできなかったのでもちやうとした。でも、自分自身で自信を持っていくようにしたい。 ・話をしっかりと聞いていたけど、アドバイスをしようとして聞いていなかったのでもちやうとした。でも、自分自身で自信を持っていくようにしたい。 ・話の内容をしっかりと聞いていなかったのでもちやうとした。でも、自分自身で自信を持っていくようにしたい。 ・できました。この班はみんなでもちやうとしたと思います。先輩は写真や本も用意してあったのでよかったと思います。	・実際の自己紹介のようにはきはきと話す。覚えたことをただ話さないようにする。 ・「えっと」を英語で言うとか、工夫したいところを聞いて、次から直していればよかったと思います。 ・ジェスチャーをつけようとするとか話ぐちゃぐちゃになってしまった。もっと練習する。 ・つかえていた事もあったし、また完全に自分のスピーチを覚えていないから改善していきたい。 ・「えっと」はあまり使いたくないけど使うときは「Well...」を使う。速く覚える。
①4月の発表を振り返れたこと、自己紹介を再チャレンジできること、相手のいいところを見つけたことがよかった。友達に自己紹介でいいところを必ず見つける。	②恥ずかしがらずに話せるようにしたい。	(1時間目) (途中でつまらない) ③アドバイスを言えなかった人がいた。時間がなかった。みんな楽しそうに活動していた。 ④言い忘れがあった。でも、相変わらずまっすぐな気持ちで、セリフをかんてした。本(見せるための道具)やジェスチャーは使えたからよかった。 (2時間目：1年4組) ⑤できたと思う。みんな沢山アドバイスを言ってくれたので、よかった。 ⑥日本語を使わない(えっとなど)。写真は、もっと長い間見せたい。楽しかった。9月は完璧にしてのぞみたい。	・できました。だけど、2年生の先輩は発音や声の大きさ、アイコンタクトなどいろいろ上手で、あまりアドバイスすべきところはありませんでした。先輩には「えっと」を使わないことを注意されました。次回から気を付けたいです。 ・アドバイスしてもらって、いろいろとわかりました。例えば「えっと」とかを英語に直して言うとか工夫したいところを聞いてよかったです。相手にアドバイスをすることはできなかったのでもちやうとした。でも、自分自身で自信を持っていくようにしたい。 ・話をしっかりと聞いていたけど、アドバイスをしようとして聞いていなかったのでもちやうとした。でも、自分自身で自信を持っていくようにしたい。 ・話の内容をしっかりと聞いていなかったのでもちやうとした。でも、自分自身で自信を持っていくようにしたい。 ・できました。この班はみんなでもちやうとしたと思います。先輩は写真や本も用意してあったのでよかったと思います。	・実際の自己紹介のようにはきはきと話す。覚えたことをただ話さないようにする。 ・「えっと」を英語で言うとか、工夫したいところを聞いて、次から直していればよかったと思います。 ・ジェスチャーをつけようとするとか話ぐちゃぐちゃになってしまった。もっと練習する。 ・つかえていた事もあったし、また完全に自分のスピーチを覚えていないから改善していきたい。 ・「えっと」はあまり使いたくないけど使うときは「Well...」を使う。速く覚える。

異学年交流学習活動 1年生コメント 一覧表

1時間目 (1年3組) コメント	2時間目 (1年4組) コメント
<p>○すごく良かった。○内容は簡単で分かりやすかったです。</p> <p>△少し聞き取りにくかった。△もう少し大きな声で言った方がいいんじゃないかなと思った。少し聞き取りにくかった。△大きい声ではっきりと。△声が小さくて聞き取りにくかったです。△よく聞こえなかった。少しつまっていた</p>	<p>○わかりやすかった。英語らしい最後の終わり方は1年生と違った。○たくさんいろんなことを言っていてよかった。少しだけ手を使っていたことがよかった。○体を使って表している良かった。○手でジェスチャーをしていたので良いと思った。</p> <p>△やはり声が…。△聞き取りにくかった。△やっぱり声が小さいかな? △文と文の間に少し間があった。△声をもう少し大きくすればいいと思った。</p>
<p>○よく分かりやすい自己紹介だった。○スラスラ言っていてよかったと思う。分かりやすかった。○わかりやすい内容でした。</p> <p>△もう少し大きな声で話して欲しかった。△大きい声ではっきりと言うことと、しっかりと間をとってしゃべる。△声の大きさが少し小さくて聞きやすいところ、聞きにくいところがありました。△少し聞こえにくかったです。</p>	<p>○内容はよかった。アイコンタクトがとれていた。○いろんなことを言っていて、アイコンタクトをしていてよかった。○目を合わせていてよかった。○詳しく説明していたので良かった。アイコンタクトをしていた。</p> <p>△声が実際に発表するときよりも小さいよう。△声が少し小さかった。△声の大きさが少し小さかった。△声が少し聞き取りにくかった。</p>
<p>○大きな声で話していたところ。アイコンタクトをしていたところ。楽しそうに話していたところ。聞きやすかった。発音がよくなったところ。○大きい声ではっきりと音で聞いて聞き取りやすかったし、ゆっくりと言っていて分かりやすい発音だった。○ジェスチャーをつけていて分かりやすかった。単語の意味を説明していた。○発音がよくなった。物を出していたり、絵(写真)をみせてくれて分かりやすかった。ジェスチャーがあつて分かりやすかった。○声が大きいし、ジェスチャーもよかったです。本なども出していて、very goodでした!</p> <p>△速く自分には聞き取れなかった。</p>	<p>○とてもわかりやすくて、パーフェクトでした!! 乗馬出来るなんてスゴイ!! ○家族の紹介も入っていて良いと思った。乗馬にもいろいろな言い方があることが分かった。スゴイ。○とてもわかりやすかったです。声の大きさなども、とてもよかったです。○やっぱり、2年生は勉強をしてきているから、かまない。すごく速いし、難しい単語があった。○発音がとてもきれいで間違えた所には英語で「すみません」と言っていて、ジェスチャーでよかったです。</p> <p>△なし</p>
<p>○図などを使っていると思った。○スピードはゆっくりで良かったと思います。○写真が出てきてよかった。○スピードはゆっくりで良かったと思います。物(写真)を見せていてよかった。○プリントしてそれを見せたいので、わかりやすかった。自分の犬の写真を見せてくれたので、どんな種類の犬なのか言葉で説明しなくてもよかった。</p> <p>△少し声が小さかったので、そこを気を付けた方が良かったと思った。△少し聞き取りにくかったと思う。声が小さい。△声が小さかった。△声が小さかったのが最初、何を言っているのか分かりづらかった。</p>	<p>○はっきり話していてよかったと思いました。図(写真)も使っていてよかった。○図も利用していたし、生活がよくわかったし、教科書をまねて書いていたけれど、その他の発表もあったので良かった。○内容が良かったと思うし、写真とかを使って詳しく説明していた良かったと思います。発音も良かったと思います。○テニス部。兄弟1人。内容がよくわかった。△最後が聞き取りにくかった。○言葉の1つ1つははっきりして、ジェスチャーも使っていてすごい良かった。</p> <p>△なし</p>
<p>○内容が良かった。○間があいていてゆっくりして良かったと思います。○聞きやすかった。発音がよくなった。○声ははっきりしていたので、聞きやすかった。十分聞きやすくて聞こえた。</p> <p>△声が小さくて何を言っているかわからなかった。終わりの方もあやふやだった。</p>	<p>○前を向いて話していてよかったと思いました。○一応分かったし、よかった。○アイコンタクトも少ししてよかったと思いました。発音? てか分かりやすく言っていて聞き取りやすかったと思います。○写真があつて分かりやすかった。言いたいことがわかった。○はっきり言っていて聞きやすかった。</p> <p>△少し声が小さくて、アイコンタクトも少なかったから、そこを直した方がいいと思った。△少し聞き取りにくい。終わり方もはっきりしていない。△話がちょっと速くてついていけなかった。</p> <p>△なし</p>
<p>○家族のことも分かりやすくてよかった。○ちゃんと英語らしく言っていたのですがごいなどと思った。プリントも見ていないのにきちんと。○英語の発音がきれいだった。○みんなの方を向いて、スラスラ言っていたのがいいと思った。○分かりやすく、聞き取りやすかった。</p>	<p>○アイコンタクトができていてすごかった。発音がよくなった。○アイコンタクトもできて、発音もできていたと思う。○英語らしい発音で良かったと思います。</p> <p>△なし</p>

1時間目 (1年3組) コメント	2時間目 (1年4組) コメント
<p>○アイコンタクトができていた。○分かりやすい発表でよかった。間隔もあけてあって、聞き取りやすかった。○内容が長くて、とても聞き取りやすくてよかった。○とても聞き取りやすかったし、リズムも良かった。家族のこととかも詳しく述べていたと思うし、自分の入っている部活についても、自分の気持ちを伝えていてよかった。</p> <p>△聞いたことのない英語が出てきて少し戸惑った。</p>	<p>○聞き取りやすい部分が多かった。○やっぱり聞き取りやすかったと思う。速さがよかった。○速さ、発音などがよくなったので聞き取りやすかった。○速さがちょうどよかったと思います。町の名前がわかりにくかった。</p> <p>△間をあげる。前を向く。ジェスチャー。△わかりにくい発音があった。△覚えられないところもあった。</p>
<p>○少し短かったが、色々なことが分かった。犬のスペルも分かった。○とても聞き取りやすくてよかった。声の大きさとかもよくて、すごいと思った。○自分の好きなことについて教えてくれた。自分のペットの犬の名前のスペルまで詳しく教えてくれてよかった。</p> <p>△難しすぎてよく意味が分からなく、混乱してしまった。</p>	<p>○しっかり暗記していた。前を向いて話をしていて、日本語で話すところがほとんどなくて英語で言っていた。○少し早かったけど、とても多い文をすべて暗記してすごかったし、わかりやすかった。それに犬の名前もスペルを言ってくれてわかりやすかった。○少し早かったけど、聞き取りやすくてよかったと思う。○すべて暗記していたし、英語の発音がよくなったと思うのでよかったと思います。○速かったということ。ペットの名前のアルファベットまで紹介していてよいと思う。</p> <p>△なし</p>
<p>○Tシャツを見せていて分かりやすかった。○言いたいことがよくわかった。特に良かったと思うことは、1つのこと(わからないこと)について詳しく説明していたと思う。実物を使っていた!</p> <p>△しゃべるのがちょっと速い。文と文の間がせまい。△少しスピードが速くて聞き取りにくかった。△もっと良くするためには、文と文の間をあけて、ゆっくりするといいい。</p>	<p>○実物を示し、とても分かりやすいスピーチだった。発音がきれいだった。○ジェスチャーを使っていた。○発音がキレイ。実物が見れて、いいと思った。○発音がキレイでした。実物を見せてくれてわかりやすかった。○発音がキレイで、物を見せて説明してよかった。だから、とても良いスピーチだったと思いました。</p> <p>△ちょっと言うのが速い。△少し速かった。△もう少しはっきり言ってもらえばよりよいスピーチになったと思う。</p>
<p>○とても聞きやすい自己紹介でした。○聞き取りやすかった。○よくわかった。○物を見せながら発表していたのがよかった。英語が上手!! 声も聞きやすい大きさがよく分かった。○自分のことを詳しく説明してよかったと思った。例を持ってきていてよかった。</p> <p>△声の調子に上下をつけた方がよい。△少し難しかった。(英語が苦手だからです。) △もうちょっとはっきり言っていてよかった。</p>	<p>○発音がとてもきれいだった。物を見せたり、ジェスチャーを使っていた。○本を出して説明したところがよかった。○実物を見せたり、ジェスチャーを使っていたのがよかったと思う。また、説明が詳しく、分かりやすかった。声の大きさ、速さの調節とかもしっかりできて、良いと思う。○発音がきれいだった。</p> <p>△よくわからない単語が多くあつてうまく聞き取れなかった。△途中で数字を言っていたところがあつたけど、そこがうまく聞こえなかった。</p>
<p>○しっかり自己紹介が上手くできていて良かったと思います。○文が区切られていて頭に入りやすい。○好きなことなども入っていて、よくわかった。自分も、よく聞かない!! と思った。○みんなをしっかりと見ていたのがよかったし、紙も見ずに発表していたのがよかった。△少しつまっていたかも…</p> <p>△話すスピードを一定にした方がよい。△もう少し詳しく話せばよかった。</p>	<p>○わかりやすい単語を使っていたので、よくわかった。○1年生にも分かりやすい発表でよかったと思う。ゆっくり話していたので、ジェスチャーがとてもよく伝わっていました。○1年生でも習っている単語を使っていたのでよかったと思う。○ちゃんとジェスチャーしていてもわかりやすかったし、ジェスチャーしながらゆっくり言っていてさらによかった。</p> <p>△名前などが聞き取りにくかった。えーとを無理に英語にしていた。単語ごとに切っていた。△もう少し大きな声で話せばよかったのでは? △名前が聞こえにくかった。</p>
<p>○詳しく言っていたこと。</p> <p>△ちょっと速かった。アイコンタクトしていない。△アイコンタクトなどをやる。もう少しゆっくり言っていたらよかった。△アイコンタクトをしてほしかった。△ちょっと話の速かった。△少し遅く言ったほうがいいかもしれない。</p>	<p>○発音がきれい。○指折り数えていて、家族が何人いるかがよくわかった。好きな歌手の名前など、ユニークな発表をしていた。○英語らしく、指などを使っていた良かった。○英語らしい発音して、すごく良かった。ジェスチャーもあつてわかりやすかった。</p> <p>△なし</p>
<p>○分かりやすかった。</p> <p>○わかりやすかったので、よかったです。△もう少しゆっくり言った方がいい。</p> <p>△もう少し声を大きくしてほしかった。</p>	<p>○速度が自分にはちょうど良い。○紙を見ないで、英語らしかった。○発音とかすごく良かった。</p> <p>△すこし聞きづらい所があったから、もう少しはっきりしゃべったほうがいいと思います。△なるべく聞こえやすく丁寧にやっていた。△1年生は知らない表現を使っていた。</p>

自己紹介文を書こう！

- ◎自分のことを外国の友達に紹介する文を書こう。
 ・名前、出身地、入っている部、好きのもの（スポーツ、食べものなど）、
 ・するスポーツ、演奏する楽器、持っているもの、など、自分のことを表わす文。
 ◎来週、みんなの前で発表します。録音します。
 ・1行1文で。
 ・発表の原稿だと思って書いてください。
 ・全て暗唱してください。発表は、原稿を持たずに行います。

Hello (Hi), everyone (friends).

My name is _____
 I'm from Kanazawa.
 I like basketball.
 I like oranges.
 I like science.
 I have two brothers.
 I don't play tennis.
 I don't like tomato.

Thank you.

自己紹介文を書こう！

- ◎自分のことを外国の友達に紹介する文を書こう。
 ・名前、出身地、入っている部、好きのもの（スポーツ、食べものなど）、
 ・するスポーツ、演奏する楽器、持っているもの、など、自分のことを表わす文。
 ◎来週、みんなの前で発表します。録音します。
 ・1行1文で。
 ・発表の原稿だと思って書いてください。
 ・全て暗唱してください。発表は、原稿を持たずに行います。

Hello (Hi), everyone (friends).

My name is _____
 I'm twelve.
 I'm a junior high school student.
 I'm from Kyoto.
 I'm in the tennis club.
 I like tennis.
 I like J-pop.
 I play tennis and badminton.
 I play the piano.
 I have a sister.

Thank you.

資料9

For your better self-introduction [自己紹介をよりよくするために]

1. Read and look up をしながら読もう。

・ Jim always says to you, " Eye contact."

・ わかりにくいことを伝えようとする時、相手の反応を見ながら話そう。
 できる人は必要に応じて、こんな風に聞いてみよう。

Do you understand what I mean? (私の言っていることがわかりますか。)
 Can you hear me? (聞こえますか。)

2. Read clearly and loudly. いつもよりはっきり、大きな声で読もう。

・ はっきりさせるために、文と文の間に pause(一時休止)をおこう。
 ・ Don't read too fast. 言うのが早すぎると、伝わりませんよ。

3. Tell your name more carefully. 自分の名前(や難しい地名など)をもっと丁寧に伝えよう。

A: My name is Masakiyo. M-A-S-A-K-I-Y-O.

B: Your name is Masakiyo, right?

A: Yes.

A: I live in Teramachi. T-E-R-A-M-A-C-H-I.

B: You live in Teramachi, right?

A: Yes.

4. Do some gestures. 言葉以外の体の動きや顔の表情をうまく使おう。

・ あまり大きめにしないで良いので、少なくとも2つぐらいは入れよう。

- ① I, my など、自分を指す場合
- ② 数字、ものの数量を言う時の指。
- ③ big, littleなどは手で表現できそう。
- ④ tennis, pianoなども軽く動作できそう。
- ⑤ yes・noなどを使って否定する場合の表情や手、頭の動き など。

◆ 授業を終えて

1. 「これは使えそうだな。」とか「(相手がそうしているのを見て)これはいい。」と思っただけのものではなく、○で番号を囲んでください。

- ① Read and Look Up (Eye Contact) ② Clearly and Loudly
 ③ name more carefully ④ Gestures

コメント(実際にやってみて、相手自己紹介を見て、どうでしたか。)

Gestures を やった方が 分かりやすかった

Eye Contact を した方が 相手に 気持ち が 伝わった と思う

2. その他の授業の感想を書いてください。

Eye Contact と Gesture は 大切なものだと
 分かった。

外国人と話すときに使いたい。

資料10

date Wednesday, April 19th

class _____

Hello, everyone! My name is _____
I'm thirteen
years old. My birthday is March 25th. I'm younger than any other students in this class.

I have a pet. He is a toy poodle, and his name is Raia.

Its spell is R-A-I-A.
I love him very much.

My favorite band is the Sex Pistols. They are cool very much,

because they are anarchist.
I like punk rock very much.

Thank you for your time.

date Wednesday, April 19th

Hello, everyone!

My name is _____

I was born in Fukuoka in 1992.

I have four people in my family.

My father, my mother, Pongo, and me.

Pongo is a younger brother.

And he is a (dalmatian) dog.

(He is so sweet.)

We call him "Pon-chan"

(He likes chocolate and cheese very much.)

We love Pongo.

I'm member of the brass band club.

I play the saxophone, but I need more practice. (I want to be a good saxophon player.)

Thank you for your attention. (time)

date Wednesday, June 26th

class _____

◎4月にした自己紹介の原稿をもう一度見直し、間違いを訂正したり、1年生にわかりやすく直したりしたスピーチ原稿を完成させよう。

Hello, everyone! My name is _____

I'm thirteen years old.

My birthday is March 25th.

I have a pet. He is a toy poodle.

His name is Raia. I love him very much.

My favorite band is the Sex Pistols.

(They played in the U.K.)

And they're a punk ^{rock} band. They are very cool to me. They are anarchist.

How do you say "anarchist" in Japanese?

It's 無政府主義. It's very interesting.

Thank you very much.

◎7月10日の授業に向けて、練習しよう。

◎4月にした自己紹介の原稿をもう一度見直し、間違いを訂正したり、1年生にわかりやすく直したりしたスピーチ原稿を完成させよう。

Hello, everyone!

My name is _____

I'm fourteen years old.

I was born in Fukuoka in 1992, and I live in Toiyogaoka new town.

I have four people in my family.

My father, my mother, Pongo and me.

Pongo is a younger brother, and he is a dalmatian dog.

He is so sweet. He loves chocolate and cheese very much.

We call him "Pon-chan". We love him.

I'm member of the brass band club.

I play the saxophone, but I need more practice.

I like English and math.

They are very interesting.

My hobby are listening music, using computers, and reading books.

My favorite book is "Da Vinci Code".

Thank you for your attention.

◎7月10日の授業に向けて、練習しよう。

教生への自己紹介 自己評価 一覧表

- ①今日の授業では、教生の先生のアドバイスを聞いて自分の自己紹介に生かすことができましたか。できなかった場合は、どうしてできなかったのかも振り返って、書きましょう。
- ②今日の授業を振り返って、自分の自己紹介の良くなったところはどんなところですか。また、うまくいかなかったところはどんなところですか。うまくいかなかったところについては、その原因も振り返って書きましょう。
- ③今日の授業の感想を書きましょう。

①先生のアドバイスが生かされたか。	②自己紹介のよくなったところ、うまくいかなかったところ	③授業の感想
できました。	アイコンタクトやジェスチャーなど言語以外のものを使って自己紹介を工夫することができました。アクセントをもっと意識して話せばよかったと思います。	自分の自己紹介の良いところ、悪いところを知ることができてよかったです。次に自己紹介をするときは、良いところをもっとのびして、悪いところは改善していきたいです。
2回目は相手の様子を見ながら自分から質問とかもできた。前から気を付けていたアイコンタクトもしっかりできた。	前よりも落ち着いてしゃべれたと思う。急な質問でも、黙り込まずに何とか伝えようとしたら相手にも何か伝わった。わからなくても何とか伝えるという動きが出てきてよかった。	「話すのは上手」と言われて嬉しかった。アイコンタクトもできた。でも、Do you understand what I mean?とかは使うタイミングがわからなかった。だからもっと勉強したいと思った。
1回目の先生に「声を大きくしたほうがいい」と言われたから、次の先生のときに気を付けた。「質問の答えは単語ではなく文で。」と2回言われた。	相手が1人だったので、アイコンタクトをちゃんとできた。少し慌てて質問の答えがしどろもどろになってしまったのが残念だった。	ただ覚えた英語を言うのではなく、相手の理解を確認しながらわかりやすく話す。日本語で考えたことを英語になおして言わなくてはならず大変だった。
初めの先生では、強弱をつけると言われ、2回目の先生ではアイコンタクトをつけると言われたので次回からは、それらに気を付ければ良くなると思う。	ジェスチャーが上手くできたと思う。でもアイコンタクトとか、急いでいて出来なかった。	相手の気持ちを考えるということは、とても難しかった。簡単には伝わらないことが分かった。
リラックスしようと思ったのに、緊張してしまてできなかった。文と文の間をあげたり、ゆっくりと話したりすることができた。	相手の気持ちを考えて、やさしい気持ちでやることができた。アイコンタクトができずに目がいろいろなどろを見ていた。	相手の気持ちを考えるということが、難しそうだったけれど、できるようになったので、よかったです。
沈黙をつくらないと言われ、それは活かすことができた。でも緊張していたせいか、声の大きさやスピードがあまりよくなかった。これから気を付けていきたいです。	良い：沈黙をつくらないようにする。アイコンタクト。悪い：スピードや声の大きさ、相手の理解を確認すること。	しっかりとアドバイスをもらえたので、アドバイスされたことを次から活かしていきたい。

①先生のアドバイスが生かされたか。	②自己紹介のよくなったところ、うまくいかなかったところ	③授業の感想
教生先生のアドバイスを聞いて、次に生かそうと思ったけど、意識しすぎて、逆にできなくなってしまった。	教生先生のアドバイスを聞いて、次に生かそうと思ったけど、意識しすぎて、逆にできなくなってしまった。	人前ですると緊張するけど、原稿を思い出すのではなく、日本語のときと同じようにただ単純に自分のことを紹介することを考えながらすればいいと思いました。
1回目の先生に「速い」と言われて、2回目の先生の時は「余裕があるね!」と言われました。一度練習すると落ち着きました。	紙がない分、アイコンタクトやジェスチャーをしようと考え、行動にうつせました。うまくいかなかったのは文型がぐちゃぐちゃになったことです。	2回目は間をとるために、一呼吸置いてから話したので、相手の理解が深まりました。また、要点を一度まとめてから話したので、英語らしさ・声の大きさにも気を配ることができました。多くのことを達成することができた2時間でした。
できた。1回目はすぐに終わってしまったし、あせって速く言ってしまったけれども、2回目では1回目では注意されたことに気を付けて直すことができました。いい経験になったと思います。	笑顔とアイコンタクトはだいぶよくなったし、自分のものにできたと思います。でもジェスチャーと理解を確認するのは全くできなかったわけではないけど、少し実行した回数が少なかった気がします。多分会話の内容ばかり気にしていたんだと思います。	やはり、まだまだ前回つくった原稿に頼ってしまっているし、質問に対する応答ができていくけどスラスラと軽やかに言えませんでした。でも今回のでだいぶ上達したと思うので、これからも頑張って全部Aと自信をもって言えるようにしたいです。
イントネーションをつける。(大事なところは大きくゆっくり!!) 理解したかを聞く。(Do you understand what I mean?) 笑顔を忘れたい。	ゆっくり話すことが前より上手になった。イントネーションがでなかった。(大切なところをもっと大きく言えばよかった。)	1対1で自己紹介をするのは初めてだったので、とても緊張しました。もっとイントネーションなどに気を付けて上手に自己紹介ができるようにしたいです。
できました。	声の調子の上げ下げがもう少しできるようになった。アイコンタクトをとれた。	自己紹介のやり方がうまくなれてよかったです。
1回目の自己紹介のときに注意されたアイコンタクトは2回目に注意できたし、笑顔で楽しくできました。あとは、もう少し英語らしく言えればいいと思いました。	アイコンタクトやジェスチャーをするようになりました!! 「覚えた英語を言うんじゃなく、相手の理解を確認しながらわかりやすく話す。」ということがばっちりできました。	教生の先生との授業は楽しかったです。もっともっと上手になりたいです。